

高田純研究業績 論文 図書 特許 学会報告 国際会議報告 受賞 報道 など

I 著書

1. Fritzsche H., Ugun H., Takada J. and Yang S.-H. : Disorder and order in the solid state, edited by Pryor R. W., Schwartz B. B. and Ovshinsky S. R., Plenum Publishing Corporation, 1 節, 11-22, 1988, (Metastable nonlinear conductance phenomena) を共同執筆。高温状態からクエンチされた準安定状態の高い伝導性やPNPNドーピング超格子における持続する光伝導現象が紹介された。本人はPNPNドーピング超格子の物理を解説した。共著。
2. Takada J., Hoshi M., Endo S., Yamamoto M., Nagatomo T., Gusev B.I., Roseuson R.I. : High Levels of Natural Radiation 96, Radiation Dose and Health Effects. Elsevier Science, 高レベル放射線の線量と健康影響に関する論文集核兵器実験からのフォールアウト「Dosimetry study of residents near Semipalatinsk nuclear test site」, 191-195, 1997, 世界の高レベル放射線の線量と健康影響に関する本で、本人はセミパラチンスク核実験周辺住民の外部被曝線量評価を解説した。共著。
3. 高田 純 : 「世界の放射線被曝地 (90 分ビデオ)」, 高等教育情報化推進行議会 エルネットオープンカレッジ, 著者がこれまで調査した世界の被曝地の状況を中心に、放射線の影響と被災地の回復をテーマに解説した。(大学公開講座), 単著, 2000
4. 高田 純 : 「世界の放射線被曝地調査」, ブルーバックス, 講談社, 1-280, 2002, 著者がこれまで調査した世界の放射線被曝地の状況の他、核災害の概要、わが国の核燃料サイクル開発計画、核災害時の放射線防護法等を解説した。単著, 2002
5. 高田 純 : チェルノブイリを訪ねて～チェルノブイリ事故から学ぶ原子力防災～DVD ビデオ(12 分), (株) 中国電力企画, 毎日 EVR システム製作, 2003, 単著.
6. 高田 純 : 「東京に核兵器テロ！」 講談社, 1-263, 2004, 単著.
7. 高田 純 : 「核災害からの復興－広島、チェルノブイリ、ロンゲラップ環礁の調査から」 医療科学社, 1-63, 2005, 単著.
8. Takada, J. : Nuclear Hazards in the World, Springer and Kodansya, 1-134, 単著, 2005.
9. 高田 純 : 「核災害に対する放射線防護－実践放射線防護学入門」, 医療科学社, 1-82, 単著, 2005.
10. 高田 純 編集 : 「放射線防護医療 第 1 号」 第 1 回放射線防護医療研究会報文集, 放射線防護医療研究会, 2005. 11. 21
11. 高田 純 : 核と放射線の物理－放射線医学と防護のための基礎科学, 高田純の放射線防護学入門シリーズ, 医療科学社, 1-140, 単著, 2006.
12. Robert W. Young, George D. Ker 編集 : 広島および長崎における原子爆弾放射線被曝線量の再評価－DS02 (線量評価システム 2002), 上・下巻, (財) 放射線影響研究所, 上巻 II-XV, 単著, 2006.
13. 高田 純 編集 : 「放射線防護医療 第 2 号」 第 2 回放射線防護医療研究会報文集, 放射線防護医療研究会, 2006. 11. 29

14. 高田 純：お母さんのための放射線防護知識ーチェルノブイリ事故 20 年の調査でわかったこと，高田純の放射線防護学入門シリーズ，医療科学社，1-62，単著，2007.
15. 高田 純：「核爆発災害ーそのとき何が起こるのか」，中央公論新社，1-274，単著，2007.
16. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第3号」第3回放射線防護医療研究会論文集，放射線防護医療研究会，2007. 11. 14
17. 高田 純：「医療人のための放射線防護学」，医療科学社，1-144，単著，2008.
18. 高田 純：「核エネルギーと地震 中越沖地震の検証 技術と危機管理」，医療科学社，1-124，単著，2008.
19. 高田 純：「中国の核実験 シルクロードで発生した地表核爆発災害」，医療科学社，1-54，単著，2008.
20. 高田 純：「Chinese Nuclear Tests」(「中国の核実験」英語／ウイグル語翻訳版)，医療科学社，1-158，単著，2008.
21. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第4号」第4回放射線防護医療研究会論文集，放射線防護医療研究会，2008. 12. 20
22. 高田 純：「核の砂漠とシルクロード観光のリスク NHK が放送しなかった楼蘭周辺の不都合な真実」，医療科学社，1-80，単著，2009.
23. 高田 純：「ソ連の核兵器開発に学ぶ放射線防護」，医療科学社，1-128，単著，2009.
24. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第5号」第5回 放射線防護医療研究会論文集，放射線防護医療研究会，2009. 12. 26
25. 高田 純：「核と刀 核の昭和史と平成の闘い」，明成社，1-300，単著，2010.
26. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第6号」第6回放射線防護医療研究会論文集，シンポジウム 核放射線技術 国民保護と平和利用，総合討論 9.7 尖閣事件と国民保護放射線防護医療研究会，2010. 12. 1
27. 高田 純：「放射線から子どもの命を守る」，幻冬舎ルネッサンス，1-148，単著，2011.
28. 高田 純：「福島第一原発事故に学ぶ 放射線防護の基礎知識」，株式会社イーグルパブリッシング，1-155，単著，2011.
29. 高田 純：「福島 嘘と真実ー東日本放射線衛生調査からの報告」，株式会社医療科学社，1-90，単著，2011.
30. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第7号」第7回放射線防護医療研究会報論文集，シンポジウム 福島第一津波核災害の影響と復興，放射線防護医療研究会，2011. 12. 12
31. Takada, J：「Fukushima: Myth and Reality」，医療科学社，1-59，単著，2012.
32. 高田 純：「放射能・原発、これだけ知れば怖くない!」，幸福の科学出版，1-234，単著，2012.
33. 高田 純：「東京に弾道ミサイル! 核災害で生き残れる人、生き残れない人」，オークラ NEXT 新書，1-239，単著，2012.
34. 高田 純, 中川八洋：「原発ゼロで日本は滅ぶー“非科学”福島セシウム避難の国家犯罪」，オークラ出版，1-253，2012.
35. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第8号」第8回放射線防護医療研究会論文集，シンポジウム 福島津波核災害の克服と日本の核エネルギー，放射線防護医療研究会，2012. 12. 16

36. 高田 純：「人は放射線なしに生きられない—生命と放射線を結ぶ 3 つの法則（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-107，2013.
37. 高田 純：「シルクロードの今昔—2012 年 タリム盆地調査から見える未曾有の核爆発災害，僧侶と科学者の運命の出会い（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-75，2013.
38. 高田 純：「21 世紀 人類は核を制す—核放射線の光と影を追い続けた物理学者の論文集—生命論（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-281，2013.
39. 高田 純：復活の牧場 報告 2013 震災元年から始まった福島県浪江町での生命の科学調査，放射線防護情報センター，1-42，2013
40. 高田 純 編集：「放射線防護医療 第 9 号」第 9 回放射線防護医療研究会論文集，シンポジウム 人は放射線なしに生きられない 福島原発 20Km 圏内の強制避難は日化学，総合討論 健康増進となる低線量率放射線と防護が必要な高放射線との境界はいくらか，放射線防護医療研究会，2013. 11. 24
41. 高田 純：「年間 1 ミリシーベルト」はなぜ理不尽か、原発とどう向き合うか 科学者たちの対話 2011～' 14，新潮新書（澤田哲生編），135-150，（単行本）
42. 高田 純：「放射線ゼロの危険 LNT モデルのもたらす世界危機の克服（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-113，2014.
43. 高田 純：「核爆発災害 —そのとき何が起こるのか（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-176，2015 【日本図書館協会選定図書 2015】
44. 高田 純 編集：「放射線防護医療 10」SAMRAI2014 論文集，福島の低線量率放射線の科学認識と 20 km 圏内の復興，放射線防護医療研究会，2015
45. 高田 純：「決定版 福島の放射線衛生調査—低線量率だった福島の真実と 20Km 圏内の復興（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-202，2015  
【日本図書館協会選定図書 2015】
46. 高田 純：「ホルミシスクリームの放射線を測る」 アルファとベータ 二股ラジウム温泉の 2 倍，放射線防護情報センター，1-42，2015
47. 高田 純：増補版「世界の放射線被曝地調査—日本人が知らされなかった真実」，（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-244，2016【日本図書館協会選定図書 2016】
48. 高田 純「誇りある日本文明 中韓が絶対に超えられない、先進と継続の理由」，青林堂，1-220，単著，2017
49. 高田 純：「ガリレオの休日 ブルーリバー — 純ちゃんのエッセイ 25 話 核防護から日本文明まで」，医療科学社，1-231，2018
50. 細野史羽、監修・高田純：「東京核撃」ヤングジャンプコミックス、1-191，集英社 2018.
51. 高田純： 脱原発は中共の罠、ハート出版、1-224、2021.
52. 高田純：日本が 3 度目の核攻撃を受けないために、ハート出版、1-240、2022.
53. 高田純：国史奈良の変 初版、ターサン出版、1-140、2023.
54. 高田純：国史奈良の変 第二版、ターサン出版、1-150、2024.
55. 高田純：真相奈良の変、ターサン出版、1-240、2025.

## II 総説

1. 高田 純，短期連載： 有機・無機ヘテロナノ薄膜材料の創製，①機能性材料の新戦略。工業材料，44(6)，66-69，1996.
2. 高田 純，短期連載： 有機・無機ヘテロナノ薄膜材料の創製，②多元ビームによる形成。工業材料，44(7)，85-88，1996.

3. 高田 純, 短期連載: 有機・無機ヘテロナノ薄膜材料の創製, ③分子オプトエレクトロニクス。工業材料, 44(8), 68-71, 1996.
4. 高田 純, 短期連載: 有機・無機ヘテロナノ薄膜材料の創製, ④ナノスペースラボ。工業材料, 44(10), 80-83. 1996.
5. 高田 純, 星 正治: セミパラチンスク核兵器実験場周辺住民の被曝, 放射線生物研究, 岩波「科学」連載, 32, 267-276, 1997.
6. 高田 純: 世界の核被災地調査, 岩波書店 科学, 73(3), 309-315, 2003.
7. 高田 純: セミパラチンスクにおける核兵器実験, 岩波書店「科学」, 73(4), 467-473, 2003.
8. 高田 純: 東京での核兵器テロ被曝シミュレーション, 岩波書店「科学」, 73(5), 614-619, 2003.
9. 高田 純: 原子力防災(前編), 岩波書店「科学」, 73(6), 644-650, 2003.
10. 高田 純: 原子力防災(後編), 岩波書店「科学」, 73(7), 815-821, 2003.
11. 高田 純: チェリノブイリを訪ねて, 中国電力株式会社広報室, 「ハーモニーネット」友の会会報誌, Tomonokai Vol.32, 2003.
12. 高田 純: 緊急被ばく医療での汚染管理レベル: 環境線量評価、平成15年度緊急被ばく医療フォーラム講演録集, 40-47, 2004.
13. 高田 純: 海外の緊急被ばく医療を調査—2003年, フランスとロシアで—, 医療科学通信, 4(8), 10-13, 2004.
14. 高田 純: “9.11テロ以後”の私の取り組み, 原子力 eye, 2月号, 23, 2005.
15. 高田 純: フランス・核燃料サイクルの安全と防災調査, 原子力 eye, 4月号, 30-33, 2005.
16. 高田 純: チェルノブイリ原子力発電所事故から20年, 原子力 eye, 7月号, 27-29, 2006.
17. 高田 純: 「備えあればサバイバル可能 北の核は恐くない」, 諸君!総力特集—蘇る「冷戦構造」—独裁国家の「宇宙・核・資源」覇権を許すな—, 高田 純(札幌医科大学教授), 兵頭二十八(軍学者), 福井晴敏(作家)3者による座談会, 諸君!4月号, 文藝春秋, 77-89, 2007.
18. 高田 純: 核爆発実験論「北朝鮮には、核実験は無理である」, 諸君!6月号, 文藝春秋, 62-73, 2007.
19. 高田 純: 「備えあれば憂いなし 核攻撃に打ち克つ都市づくりを急げ」, 諸君!10月号, 文藝春秋, 68-81, 2007.
20. 高田 純: 「もし核が東京を襲ったら 半径7km以内、負傷者は300~500万人」、週刊世界と日本, 平成19年7月23日.
21. 高田 純: 「中越沖地震、刈羽原発 核反応、最大加速4.8秒前にストップ」, 週刊世界と日本, 平成20年3月10日.
22. 高田 純: 「東電柏崎刈羽原発・被災1年 日本の原子力技術の高さは証明された」, 諸君!8月号, 文藝春秋, 200-211, 2008.
23. 高田 純: 「中国四川大地震 封印された核拠点崩壊?」, 週刊世界と日本, 平成20年7月28日.
24. 高田 純: 「中国共産党が放置するシルクロード核ハザードの恐怖」, 正論6月号, 産経新聞

- 社, 132-143, 2009.
25. 高田 純：「死のシルクロード中国による被爆実態を告発する！」，日本の息吹6月号，10-11，2009.
  26. 高田 純：「核災害の専門家が寄稿 被害者 100 万人以上のシルクロード「核の砂漠」」，宝島7月号，宝島社，55-56，2009.
  27. 高田 純：「ウィグルで 75 万人を殺した中国の核実験 世界で最も危険な中国の核」，撃論ムック1月号，オークラ出版，142-146，2010.
  28. 金盛正至、田中憲一、高田 純：「臨界事故終息作業時の線量管理方法の考察」，JAEA-Technology-2009-043，1-32，2009.
- 
28. 高田 純：「楼蘭、核の砂漠 シルクロードに残る中国核実験の爪痕」中央公論，6月号，196-205，2010
  29. 高田 純：「核と刀」，日本の息吹，平成22年5月号，20-21，2010
  30. 高田 純：「広島平和公園の碑文は撤去すべし 犠牲者を冒瀆し、核兵器保有国の戦闘使用を是認する内容」，陰謀に！翻弄された近現代 誇れる国、日本[Ⅲ]，APA GROUP, 2010, 単著.
- 
32. 高田 純：いまさら聞けない放射線の”ウソ・ホント” ，財界さっぽろ，5月号，48-49，2011
  34. 高田 純：福島周辺 核放射線状況の今を報告—福島では絶対に核爆発はない！チェルノブイリのようにならない理由—，淀橋二火会4月例会，新宿区医師会会誌，第588号，28-38，(2011.4.12新宿講演)
  35. 高田 純：福島の放射能、恐るるに足らず，月刊WiLL 2011年6月1日号，62-73，
  36. 高田 純：インタビュー「福島の害のない放射線漏れに過剰反応し、中国の核ミサイルには無策の政府」，日本時事評論，第1728号，平成23年5月20日
  37. 高田 純：「福島の住民に健康被害は起きない」，ザ・リバティ，No.198 8月号，46-51，幸福の科学出版，2011.
  38. 高田 純：「放射線これだけ知れば怖くない」第1回，ザ・リバティ，2011年11月1日発行No.201，11月号，72-73，幸福の科学出版，2011.
  39. 高田 純：「放射線これだけ知れば怖くない」第2回，ザ・リバティ，No.202，12月号76-77，幸福の科学出版，2011.
  40. 高田 純：「放射線これだけ知れば怖くない」第3回，ザ・リバティ，No.203，1月号84-85，幸福の科学出版，2011.
  41. 高田 純：「放射線これだけ知れば怖くない」第4回，ザ・リバティ，No.204，2月号88-89，幸福の科学出版，2011.
  42. 高田 純：「放射線これだけ知れば怖くない」第5回，ザ・リバティ，No.205，3月号，68-69，幸福の科学出版，2011.
  43. 高田 純：「自らの人体実験で確認！放射性ヨウ素の害を防ぐにはコンブのだし汁がお勧め」壮快，38(8)：122-123，マキノ出版，2011.
  44. 高田 純：「故郷喪失を福島県民に強いた菅直人の犯罪」，撃論，3，76-85，オークラ出版，2011.
  45. 高田 純：「原発のある町」，宝島，39(6)，161-164，宝島社，2011.
  46. 高田 純：「対岸の火事ではないシルクロードの悲劇」シルクロードの今昔，1-7，日本シルクロード科学倶楽部，2011.
  47. 高田 純：「福島の放射能、恐るるに足らず」WiLL，No.78，62-73，ワック出版，2011.
  48. 高田 純：「故郷喪失を福島県民に強いた菅直人の犯罪」撃論，3，76-85，オークラ出版，2011.

49. 高田 純：「福島の畜産農家との現地調査で分かった野田政権「立ち入り禁止区域」のデタラメ」  
撃論, 4, 133-141, オークラ出版
50. 高田 純：「福島に“非科学の極み”「帰還困難地域」を設定した政府試算の悪意とデタラメ」  
撃論, 6, 107-113, オークラ出版
51. 高田 純：「物理は仏理」, 鶯乃声, 1052号, 45-62, 宗教法人 念法眞教
52. 高田 純：「小林よしのり『脱原発論』は放射能恐怖を撒布する有害図書」, 撃論, 7, 82-61,  
オークラ出版
53. 高田 純：福島の放射線衛生調査からの報告 低線量で健康被害は発生しない, 神奈川医学会  
雑誌, 第39巻, 2号, 65-76, (第53回神奈川医学会総会・学術大会 特別講演)
54. 高田 純：高田 純：「“福島県の放射能汚染“はウソだ”と国会で叫んだ、日本維新の会・西  
田譲代議員を熱く支援する！撃論, 第10号, 56-62, オークラ出版, 2013
55. 高田 純：「原発前の海で泳ぎますよ、東電社長！ 安倍政権潰しの非科学的報道の嘘」、反日  
マスコミの真実!2014 ～特定秘密保護法反対は最後の断末魔～, 撃論, 64-73, オークラ出  
版, 2014
56. 高田 純：「福島 20km 圏内帰還困難区域の設定に誤り 科学にもとづく福島復興なしに、オリン  
ピック成功なし」、日本原子力学会誌, 56(4), 4-5, 2014
57. 高田 純：「優しい時間」 連載 ガリレオの休日①, 鶯乃声3月号, 通巻1085号, 79-82,  
宗教法人 念法眞教 2015
58. 高田 純：「美しい南の島のゆくえ」 連載 ガリレオの休日②, 鶯乃声4月号, 通巻1086号,  
79-82, 宗教法人 念法眞教 2015
59. 高田 純：「日本文明の形成に大きく関わる海路」 連載 ガリレオの休日③, 鶯乃声5  
月号, 通巻1087号, 75-78, 宗教法人 念法眞教 2015
60. 高田 純：「迷信ではなく科学を」 連載 ガリレオの休日④, 鶯乃声6月号, 通巻1088  
号, 75-78, 宗教法人 念法眞教 2015
61. 高田 純：「あの日、東京で」 連載 ガリレオの休日⑤, 鶯乃声7月号, 通巻1089号, 72-75,  
宗教法人 念法眞教 2015
62. 高田 純：「震災元年4月、現地へ」 連載 ガリレオの休日⑥, 鶯乃声8月号, 通巻1090号,  
75-78, 宗教法人 念法眞教 2015
63. 高田 純：「福島と神様」 連載 ガリレオの休日⑦, 鶯乃声9月号, 通巻1091号, 79-82,  
宗教法人 念法眞教 2015
64. 高田 純：日本人は核といかに向き合うべきか「科学的事実に基づく放射線の正しい知識を知  
る」月刊致知, 9月号, 114-116, 致知出版社, 2015
65. 高田 純：「福島と神様」 連載 ガリレオの休日⑧, 鶯乃声10月号, 通巻1092号, 88-91,  
宗教法人 念法眞教 2015
66. 高田 純：「福島第一原子力発電所前に立つ」 連載 ガリレオの休日⑨, 鶯乃声11月号, 通

巻 1093 号, 79-82, 宗教法人 念法真教 2015

67. 高田 純: 「南相馬の心配に答える」 連載 ガリレオの休日⑩, 鶯乃声 12 月号, 通巻 1094 号, 96-100, 宗教法人 念法真教 2015
68. 高田 純: 「都内のラジウム砂風呂温泉体験記」 連載 ガリレオの休日⑪, 鶯乃声 1 月号, 通巻 1095 号, 151-154, 宗教法人 念法真教 2016
69. 高田 純: 「黒曜石、見つけた!」 連載 ガリレオの休日⑫, 鶯乃声 2 月号, 通巻 1096 号, 59-62, 宗教法人 念法真教 2016
70. 高田 純: 「牛との再会」 連載 ガリレオの休日⑬, 鶯乃声 3 月号, 通巻 1097 号, 47-50, 宗教法人 念法真教 2016
71. 高田 純: 「1986 年の衝撃」 連載 ガリレオの休日⑭, 鶯乃声 4 月号, 通巻 1098 号, 72-75, 宗教法人 念法真教 2016
72. 高田 純: 「10 年後 ひまわりの舞台」 連載 ガリレオの休日⑮, 鶯乃声 5 月号, 通巻 1099 号, 73-76, 宗教法人 念法真教 2016
73. 高田 純: 「ロシア科学から理解する福島」 連載 ガリレオの休日⑯, 鶯乃声 6 月号, 通巻 1100 号, 94-97, 宗教法人 念法真教 2016
74. 高田 純: 「1 万年間の家賃」 連載 ガリレオの休日⑰, 鶯乃声 7 月号, 通巻 1101 号, 49-52, 宗教法人 念法真教 2016
75. 高田 純: 「ケープタウン会議 福島はレベル 6」 連載 ガリレオの休日最終回, 鶯乃声 8 月号, 通巻 1102 号, 43-46, 宗教法人 念法真教 2016
76. 高田 純: 「もし日本が核攻撃を受けたら」, ザ・リバティ, No.269 7 月号, 30-34, 幸福の科学出版, 2017.
77. 高田 純: シミュレーション「北の核が日本に落ちたら」 月間 正論, 2017 年 8 月号, 206-215, 産経新聞社 2017.
78. 高田 純: 「シベリア抑留 隠された真実 日本人抑留者はソ連核開発の捨て駒にされた!」 Will2018 年 7 月号, 324-333, ワック 2018.

### Ⅲ メディア関係 (新聞・TV・ラジオ・週刊誌)

1. 高田 純: 「シルクロード「核汚染」を隠蔽し続けるNHKの大罪」、週刊新潮, 516(29)2011 年 7 月 28 日号:44-47, 2011 (査読 有)
2. 高田 純: 「放射線という集団ヒステリー」 週刊新潮, 516(16)2011 年 4 月 14 日: 117-122, 新潮社, (査読 有)
3. 高田 純: 「放射能ヒステリーを煽る」 週刊新潮, 56(29), 138-141, 新潮社 (査読 有)
4. 高田 純: 飯舘村首相「責任逃れ」の避難指示 「政策に根拠なし」, 産経新聞平成 23 年 (2011) 日刊 24575 号, 5 月 5 日 1, 3 面, 2011 (査読 有)
5. 高田 純: 「放射能 ぶつかる見解」 朝日新聞, 2011 年 9 月 24 日発行 (査読 有)
6. 高田 純: 「福島放出線量 安全の範囲」 福井新聞, 2011 年 9 月 26 日発行 (査読 有)

7. 高田 純：「朝まで生テレビっていい討論！原発」， テレビ朝日， 2011年7月22日放送（25：50～28：50）
8. 高田 純：「生島ヒロシのおはよう一直線 生出演 福島の放射線について語る」 TBS ラジオ ， 2011年9月23日放送（6：15～6：23）
9. 高田 純：「たけしのガチバトル 2011 福島の低線量について語る」 毎日放送 ， 2011年12月28日放送
10. 高田 純：「ニコ生アゴラ「放射能はそんなに危険？原発のリスクを考える」 インターネットテレビ 生出演， 2011年1月19日放送
11. 高田 純：「ニコ生アゴラ「福島はチェルノイブイリにも広島にもならなかった」 インターネットテレビ 生出演， 2012年2月21日放送
12. 高田 純：「誇りなければ国は守れず、放射能キャンペーンの真実と原子力政策の行方」 日本文化チャンネル桜放送 ， 2012年8月3日 21：00－21：30放送
13. 高田 純：「放射能キャンペーンの真実と原子力政策の行方」 日本文化チャンネル桜放送 ， 2012年8月18日 20：00－23：30放送
14. 高田 純：発がんリスクはゼロ，伊勢新聞平成24年（2012）日刊46523号，9月29日14面，2012（査読 有）
15. 高田 純：「原発事故から二年～日本のエネルギー政策の行方」 日本文化チャンネル桜放送 ， 2013年4月4日 20：00－23：00放送
16. 高田 純：「平成25年度一般会計予算、平成25年度特別会計予算及び平成25年度政府関係機関予算」についての参考人、衆議院第一委員室，2013年4月5日 午後2時半
17. 高田 純：「高田純の2012年タクラマカン砂漠核ハザード調査報告」 ラジオフリーアジア ， 2012年6月 <http://p.tl/Pbxk>
18. 高田 純：「原発事故から3年 福島「帰還困難区域」の牛は、孫に食べさせても大丈夫」週刊新潮，2014年3月20日号：42-45，新潮社
19. 高田 純：「甲状腺がん発症リスク「ほぼゼロ」原発20キロ圏内も帰還は可能」教育医事新聞，第355号，2014年3月25日発行（査読 有）
20. 高田 純：「美味しんぼ」論争・科学者からの反論，VOICE平成26年7月号，136-1143，PHP出版，2014.
21. 高田 純：「ニコ生アゴラ インターネットテレビ 言論アリーナ「なぜ正確な放射能情報が伝わらないのか」4年間の放射線現地調査・今月の福島6号線調査結果 生出演，2015年3月11日放送.
22. 高田 純：「放射能ヒストリーは本当か」（科学によって解明される第5福竜丸事件の真相），VOICE平成27年4月号，124-131，PHP出版，2015.
23. 高田 純：「放射線学会議S AMR A I 2014 報告(上)(下)福島の放射線は健康リスクなし」Global Energy Policy Research 2015/4/13 <http://www.gepr.org/ja/contents/20150413-01/>  
<http://www.gepr.org/ja/contents/20150413-02/>
24. 高田 純：「福島第一原発事故 5年目の真実 (5) 被曝を恐れ逃避」，産経新聞 東京朝刊 平成28年（2016）2月28日
25. 高田 純：「北ミサイル 生存率を少しでも高めるために 建物や地下に、なければ伏せて」，産経新聞 東京朝刊 平成29年（2017）12月14日
26. 高田 純：「ゆうがたサテライト 道新ニュース 「北朝鮮ミサイル、北海道上空を再び通過」，平成29年9月15日放送

#### IV 原著



1. Jin J., Takada J., Iwata Y., Yoshizawa Y.: Precision measurements of gamma-ray intensities V.  $^{160}\text{Tb}$ ,  $^{168}\text{Tm}$  and  $^{182}\text{Ta}$ . Nuclear Instruments and Methods , 212, 259-271, 1983.
2. Takada J., Hoshi M., Sawada S. and Sakanoue M.: Uranium isotopes in Hiroshima "black rain" soil. J. Radiat. Res. 24, 229-236, 1983.
3. Fukada N., Hosokawa Y., Yamaguchi M., Takada J., Kondo M., Nishimura K. and Tawada Y.. Characterization of thin p-layer in pin hetero-junction solar cells. J. Non-Cryst Solids 77&78, 1477, 1985.
4. Yamaguchi M., Takada J., Hosokawa Y. and Tawada Y.: The study of carrier transport in thin a-Si:H films by the aid of transient and steady state photocurrent measurement. J. Non-Cryst. Solids, 77&78, 447, 1985.
5. Tawada Y., Takada J., Fukuda N., Yamaguchi M., Yamagishi H., Nishimura K., Kondo M., Hosokawa Y., Tsuge K., Nakayama T. and Hatano I.: Stability of an amorphous SiC/Si tandem solar cell with blocking barriers. Appl. phys. Lett., 48, 584, 1986.
6. Takada J., Yamaguchi M., Fukada N., Nishimura K. and Tawada Y.: Thermal degradation of a-Si:H solar cell by dopant diffusion. J. Appl. Phys., 26, 889-892, 1987.
7. Takada J.: Drift mobility of steady state photocarriers in a-Si:H. Phys. Rev., B36, 1703-1705. 1987.
8. Takada J. and Fritzsche H.: Photo-induced change in the density of localized states near the conduction band of doped a-Si:H., Phys. Rev., B36, 1706-1709, 1987.
9. Takada J. and Fritzsche H.: Drift mobility of doped a-Si:H at high temperatures. Phys. Rev., B36, 1710, 1987.
10. Takada J. and Fritzsche H.: Photo-induced and bias induced metastable states in the transverse conduction of pnpn doping-modulated a-Si:H superlattices. J. Non-Cryst. Solids, 97&98, 907-910, 1987.
11. Takada J., Mazaki H. and Bando Y.: Modified London penetration depth in oxide superconductors. Bulletin of Institute of Chemical Research, Kyoto University, 66-2, 45-48, 1988.
12. Takada J., Mazaki H. and Bando Y.: London penetration depth of superconductors having lifetime broadened density of states. Appl. Phys. Lett., 53, 332-333, 1988.
13. 高田純, 山本和貴, 飯島賢二, 間崎啓匡, 寺嶋考仁, 坂東尚周 : Pt/AlO<sub>2</sub>/YBa<sub>2</sub>Cu<sub>3</sub>O<sub>7-x</sub>/SrTiO<sub>3</sub> 単結晶薄膜トンネル接合. 紛体および粉末冶, 第35巻第5号:101-104, 1988.
14. Takada J., Terashima T., Bando Y., Mazaki H., Iijima K., Yamamoto K. and Hirata K.: Tunnel junctions using oxide superconducting thin films epitaxially grown on SrTiO<sub>3</sub>. Appl. Phys. Lett., 53, 2689-2691, 1988.
15. Terashima T., Iijima K., Yamamoto K., Takada J., Hirata K., Mazaki H. and Bando Y.: Formation and properties of YBa<sub>2</sub>Cu<sub>3</sub>O<sub>7-x</sub> single crystal films by activated reactive evaporation. J. Crystal Growth, 95:617, 1989.
16. Takada J., Terashima T., Bando Y., Mazaki H., Iijima K.: Quasiparticle density of states in the perpendicular direction to the Cu-O planes in YB<sub>2</sub>Cu<sub>3</sub>O<sub>7-x</sub> single-crystal thin films. Phys. Rev. , B40, 4478-4481, 1989.
17. Takada J.: Lifetime broadening picture in oxide high-temperature superconductors. J. of Sci. of Hiroshima Univ., A53-3:25-48, 1989, 学位論文.
18. Hirata K., Yamamoto K., Iijima K., Takada J., Terashima T., Bando Y. and Mazaki H.: Tunneling measurements on superconductor/insulator/superconductor junctions using single-crystal YB<sub>2</sub>Cu<sub>3</sub>O<sub>7-x</sub> thin films. Appl. Phys. Lett., 56, 683, 1990.
19. Takada J., Awaji H., Koshioka M., Nakajima A., Nevin W. A.: Organic-inorganic multilayers: A new concept of optoelectric material. Appl. Phys. Lett., 61, 2184-2186, 1992.
20. 高田純 : 光電子材料としての有機無機複合多層膜. 電子情報通信学会技術研究報告, OME93-213, 7-12, 1993.
21. Takada J., Awaji H., Koshioka M., Nevin W. A., Imanishi M., Fukada N.. Copper phthalocyanine-titanium oxide multilayers. J. Appl. Phys., 75, 4055-4059, 1994.
22. 高田純 : 有機無機ヘテロナノ構造. 電子情報通信学会技術研究報告, OME94-9, 1-6, 1994.
23. Takada J.: Size Effects of Molecular Excitons in Organic-Inorganic Hetero Nanostructures. Jpn. J. Appl. Phys., 34-1, 158-160, 1995.
24. Takada J.: Organic-inorganic hetero nanosystems as an approach to molecular optoelectronics. Jpn. J. Appl. Phys., 34:3864-3870, 1995, (招待論文) .

25. 高田 純：有機―無機ヘテロナノシステムの形成. 応用物理, 64, 695, 1995, (招待論文) .
26. Endo S., Hoshi M., Suga S., Takada J., Komatsu, K.: Determination of the relative neutron sensitivity of a C-CO<sub>2</sub> ionization chamber. Phys. Med. Biology., 41, 1037- 1043, 1996.
27. Uehara S., Endo S., Takada J., Hoshi M.: Monte Carlo simulation of in vivo measurements of <sup>90</sup>Sr+<sup>90</sup>Y bremsstrahlung. Health Phys., 74, 30-37, 1998.
28. Takada J., Hoshi M., Endo S., Yamamoto M., Nagatomo T., Gusev B. I., Rozenson R. I., Apsalikov K. N., Tchajjunusova N.J.: Dosimetry study of residents near Semipalatinsk nuclear test site: High Levels of Natural Radiation 96, Radiation Dose and Health Effects. Edit. Wei, L., Sugahara, T., Tao, Z., Elsevier Science, 191-195, 1997.
29. Takada J., Hoshi M., Rozenson R. I., Endo S., Yamamoto M., Nagatomo T., Imanaka T., Gusev B. I., Apsalikov K. N., Tchajjunusova N. J.: Environmental radiation dose in Semipalatinsk area near nuclear test site. Health Phys., 73, 524-527, 1997.
30. Endo S., Nitta Y., Ohtaki M., Takada J. et al.: Estimation of dose absorbed fraction for I-131 beta rays in rat thyroid. J. Radiat. Res., 39, 223-230, 1998.
31. Yoshikawa I., Takatsuji T., Hoshi M., Takada J., Kanai T., Furusawa Y., Nikjoo H. and Ikenaga M.: The relative biological effectiveness of accelerated carbon ions with different LET for inducing mitotic crossing over and intragenic reversion of the white-ivory allele in Drosophila larvae. Int. J. Radiat. Biol., 74, 239-248, 1998.
32. Hoshi M., Takada J., Endo S., Shizuma K., Iwatani K., Oka T., Fujita S. and Hasai H.: Problems of radiation dose evaluation in Hiroshima and Nagasaki and their explanation. Radiat. Protect. Dosimetry, 77, 15-23, 1998.
33. Shizuma K., Iwatani K., Hasai H., Oka T., Endo S., Takada J., Hoshi M., Fujita S., Watanabe T. and Imanaka T.: Residual Co-60 activity in steel samples exposed to the Hiroshima atomic-bomb neutrons. Health Physics, 75:278-284, 1998.
34. Yamamoto M., Hoshi M., Takada J. et al.: Pu isotopes and Cs-137 in the surrounding areas of the former Soviet Union's Semipalatinsk nuclear test site. J. Radioanalytical and Nuclear Chemistry, 242, 63-74, 1999.
35. 星 正治, 高田 純, 遠藤 暁, 静間 清: 軟 X 線の線量測定. 医用標準線量, 4, 17-22, 1999.
36. 遠藤 暁, 星 正治, 菅 慎二, 高田 純, 静間 清: C-CO<sub>2</sub> 電離箱 (IC17G) の中性子感度の測定. 医用標準線量, 4, 29-34, 1999.
37. Hoshi M., Endo S., Takada J., et al.: A crack model of the Hiroshima atomic bomb: explanation of the contradiction of "Dosimetry System 1986". J. Radiat. Res., 40 Suppl., 145- 154, 1999.
38. Endo S., Iwatani K., Hoshi M., Takada J. et al. DS86 neutron dose: Monte Carlo analysis for depth profile of Eu-152 activity in a large stone sample. J. Radiat. Res., 40, 169-181, 1999.
39. Endo S., Hoshi M., Takada J. et. al.: Neutron generator (HIRRAC) and dosimetry study: J. Radiat. Res., 40 Suppl., 14-20, 1999.
40. Takada J., Stepanov V., Hoshi M. et al.: Radiological states around the Kraton-4 underground nuclear explosion site in Sakha. J. Radiat. Res. 40, 223-228, 1999.
41. Takada J., Hoshi M., Nagatomo T. et al: External doses of residents near Semipalatinsk nuclear test site. J. Radiat. Res., 40, 337-344, 1999.
42. Yoshiakwa I., Kakatsuji T., Nagano M., Takada J., et al.: RBE-LET relationship of high-LET radiation in drosophila mutations. J. Radiat. Res., 40 suppl., 106-116, 1999.
43. Takada J., Stepanov V.E., et al.: Radiological states around the Kraton-4 underground nuclear explosion site in Sakha. J. Radia. Res., 40, 223-228, 1999.
44. Takada J., Hoshi M., et al.: External dose of residents near Semipalatinsk nuclear test site. J. Radia. Res., 40, 337-344, 1999.
45. Takada J. and Hoshi M.: External dose to 350 m zone residents around the Tokaimura criticalty accident site. J. Environmental Radioactivity, 50, 43-48, 2000.
46. Takada J., Hoshi M., Stepanenko V., et al.: Dosimetry studies in Zaborie village: Applied Radiation Isotopes, 52, 1165-1169, 2000.

47. Zhumadilyov Z., Gusev B.I., Takada J. et al.: Thyroid Abnormality trend over time in northeastern regions of Kazakstan, adjacent to the Semipalatinsk nuclear test site: a case review of pathological findings for 7271 patients. *J. Radiat. Res.*, 41, 35-44, 2000.
48. Endo S., Hoshi M., Shizuma K., Takada J. and Goodhead D. T.: Calculation of the neutron W value for neutron dosimetry below the MeV energy region: *Phys. Med. Biol.*, 45, 947-953, 2000.
49. Takatsuji T., Sato H., Takada J., et al.: Relationship between the <sup>137</sup>Cs whole-body counting results and soil and food contamination in farms near Chernobyl. *Health Phys.*, 78, 86—89, 2000.
50. Endo S., Tosaki N., Shizuma K., Ishikawa M., Takada J. et al.: Radioactivity of <sup>51</sup>Cr in stainless steel collected from residents in the JCO neighborhood. *J. Environ. Radioact.*, 50, 83—88, 2000.
51. Komura K., Yamamoto M., Muroyama T., Murata Y., Nakanishi T., Hoshi M., Takada J., et al.: The JCO criticality accident at Tokai-mura, Japan: an overview of the sampling campaign and preliminary results: *J. Environ. Radioact.*, 50, 3—14, 2000.
52. Hoshi M., Konstantinov Y.O., Evdeeva T.Y., Kovalev A.I.,...Takada J. et al.: Radiocesium in children residing in the western districts of the Bryansk Oblast from 1996—1999. *Health Phys.*, 79, 182—186, 2000.
53. Shirashi K., Kimura S., Yonehara H., Takada J., et al. Survey of external dose around the JCO facility using sugar samples and ESR method. *Adv.ESR Appl.*, 16, 9-14, 2000.
54. Takada J., Suga S., Kitagawa K., Ishikawa M., Takeoka S., Hoshi M., Watanabe H., Ito A., Hayakawa N.. Directional distribution of radiation around an accident at a uranium fuel factory in Tokai-mura, 1999. *J. Radiat. Res.*, 42, 47-50, 2001.
55. Takada J. External Doses to 350 m Zone Residents due to Anisotropic Radiation from the Criticality Accident in Tokai-mura, 1999. *J. Radiat. Res.*, 42 Suppl., S75-S84, 2001. (招待論文)
56. Ivannikov A.I., Skvortsov V.G., Stepanenko V.F., Tikunov D.D., Takada J. and Hoshi M.. ESR tooth enamel dosimetry: optimization of the automated spectra deconvolution routine. *Health Physics.*, Aug.81(2), 124—137, 2001.
57. 高田 純: 漏えい放射線の異方性と350m避難区住民の被曝線量. 放医研環境セミナーシリーズ No. 28 ウラン加工工場臨界事故に対する環境測定・線量推定(藤元憲三編、放医研出版), 68—75, 2001. (招待論文)
58. 高田 純, 山本政儀. 1999年ロンゲラップ島線量調査. *Proceedings of the Second Workshop on Environmental Radioactivity, KEK, Tsukuba. KEK Proceedings 2001-5*, 107-112, 2001.
59. 高田 純, 星 正治, 山本正義, 高辻俊宏, 吉川 勲, Sekerbaev A. Kh. : ウスチカメノゴルスク市の外部被曝線量評価. *広島医学*, 55, 147-148, 2002.
60. Takada J. and Yamamoto M.: Radiological status of Rongelap Island in 1999. *J. Radioanalytical and Nuclear Chemistry*, 254, 261-266, 2002.
61. Ishikawa T., Uchiyama M., Hoshi M., Takada J., Endo S., Sugiura N., Kosako T., and Shimizu I.: New in-vivo calibration phantoms and their performance. *Health Phys.*, 82(3), 348-357, 2002.
62. Yamamoto M., Hoshi M., Takada J., Oikawa S., Yoshikawa I., Takatsuji T., Sekerbaev A. Kh., Gusev B. I.: Some aspects of environmental radioactivity around the former Soviet Union's Semipalatinsk nuclear test site: Local fallout Pu in Ust'-Kamenogorsk district. *J. Radioanal. Nuc. Chem.*, 252(2), 373-394, 2002.
63. Sato H., Takatsuji T., Takada J., Endo S., Hoshi M., Sharifov V. F., Veselkina I. I., Pilenko I. V., Kalimullin W. A. F., Masyakin V. B., Yoshikawa I., Nagatomo T. and Okajima S.: Measuring the External Exposure Dose in the Contaminated Area near the Chernobyl Nuclear Power Station Using the Thermoluminescence of Quartz in Bricks. *Health Physics*, 83(2), 227-236, 2002.
64. Ivannikov A. I., Zhumadilov Zh., Gusev B. I., Miyazawa Ch., Jiao L., Skvortsov V. G., Stepanenko V. F., Takada J. and Hoshi M.: Individual Dose Reconstruction among Residents Living in the Vicinity of the Semipalatinsk Nuclear Test Site Using EPR Spectroscopy of Tooth Enamel. *Health Physics*, 83(2), 183-196, 2002.
65. Shizuma K., Endo S., Hoshi M., Takada J., Iwatani K., Hasai H., Oka T., Shimazaki T., Okumura Y., Fujita

- S., Watanabe T. and Imanaka T.: Measurement of Residual  $^{60}\text{Co}$  Activity Induced by Atomic-bomb Neutron in Nagasaki and Background Contribution by Environmental Neutrons. *J. Radiat. Res.*, 43, 387-396, 2002.
66. 高田 純, ズマジリヨフ K. Sh, ステパノフ V. E., 今中哲二, 高辻俊宏, 大塚良仁, 山本政儀, 吉川 勲, 星 正治. 爆心地の放射線調査. *Proceedings of the Third Workshop on Environmental Radioactivity*, KEK, Tsukuba, KEK Proceedings, 2002-7, 259-264, 2002.
67. Shizuma, K., Endo, S., Hoshi, M., Takada, J., Ishikawa, M., Iwatani, K., Hasai, H., Oka, T., Fujita, S., Watanabe, T., Yamashita, T. and Imanaka, T.: Measurement of residual  $^{152}\text{Eu}$  activity induced by atomic-bomb neutron in Nagasaki and the contribution of environmental neutrons to this activity. *J. Radiat. Res.*, 44, 133-139, 2003.
68. Orlov, M., Yu., Stepanenko, V. F., Hoshi, M., Takada, J.: The accuracy of dose estimations for cohort radiation epidemiological studies. *Atomnaya Energia (Atomic Energy)*, 94(4), 331-333, 2003 (in Russian).
69. Orlov, M. Yu., Stepanenko, V. F., Hoshi, M., Takada, J.: Estimate of natural irradiation dose for the retrospective luminescence dosimetry. *Atomnaya Energia (Atomic Energy)*, 94(5), 413-415, 2003 (in Russian).
70. Orlov, M., Yu., Stepanenko, V. F., Hoshi, M., Takada, J.: Monte-Carlo calculation of gamma-dose distribution inside brick wall and in air. *Atomnaya Energia (Atomic Energy)*, 94(6), 479-483, 2003 (in Russian).
71. 高田 純: セミパラチンスク核兵器実験場グランドゼロ 2002 年の放射線調査 *Proceedings of the Fourth Workshop on Environmental Radioactivity*, 352-357, KEK-*Proceedings* 2003-11, 2003.
72. 高田 純: 1 キロトン核兵器の地上爆発による放射線被曝と防護、*広島医学*, 57, 368-370, 2004.12
73. 高田 純, 松岡審爾, 高田靖司, 小木曾 力, 大野紀和, 寺島良治, 酒井英一, 花村 肇, V. シャロフ, M. O. デグテバ: Sr-90 の内部被曝と歯に対するベータ線計数、第 88 回日本医学物理学会学術大会報文集 (JJMP), 24, sup. 3, 291-293, 2004.
74. 焦 玲, 高田 純, 星 正治: 歯エナメル ESR 線量法に対する太陽光暴露の影響、第 88 回日本医学物理学会学術大会報文集 (JJMP), 24, sup. 3, 294-297, 2004.
75. Hoshi, M., Yamamoto, M., Takada, J., Sakaguchi, A., Apsalikov, K.N., Gusev, B.I.: Radioactive contamination on land end external radiation dose in residential areas around the former Soviet Union's Semipalatinsk Nuclear Test site: A review of our studies since 1995. *Indian Journal of Radiation Research*, 1(1), 1-20, 2004.
76. Yamamoto M, Hoshi M., Takada, J., Sakaguchi, A., Apsalikov, K.N., Gusev, B.I: Distributions of Pu isotopes and  $^{137}\text{Cs}$  in soil from Semipalatinsk Nuclear Test Site detonations throughout southern district, *Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry*, 261(1), 19-36, 2004.
77. Yamamoto M, Hoshi M., Takada, J., Sakaguchi, A., Apsalikov, K.N., Gusev, B.I: Current levels and distributions of  $^{137}\text{Cs}$  and Pu isotopes in soil on the Kazakhstan territory of the Kazakhstan-Chinese border: Semipalatinsk and Lob Nor Nuclear test sites detonation, *Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry*, 261(3), 533-545, 2004.
78. 高田 純: 核兵器テロに対する公衆の放射線防護、*KEK Proceedings*, 312-317, 2004-8, 2004.
79. Takada, J: Radiation Hazard and Protection for the Nuclear Weapon Terrorism, High levels of Natural Radiation and Radon Areas: Radiation Dose and Health Effects, Elsevier, International Congress Series, 1276, 245-246, 2005.
80. 高田 純: 核ハザードの環境および社会影響、*Proceedings of the Sixth Workshop on Environmental Radioactivity*, KEK Proceedings, 176-181, 2005-4, 2005.
81. 高田 純: 放射線防護医療研究の推進、*放射線防護医療*, Vol. 1, 1-8, 2005.
82. 高田 純: 防災の指標としての線量 6 段階区分、*放射線防護医療*, Vol. 1, 32-35, 2005.
83. 加茂憲一, 高田 純: 核兵器テロ時の地下鉄による脱出シミュレーション、*放射線防護医療*, Vol. 1, 42-43, 2005.

84. 高田 純：第1回放射線防護医療研究会を開催、月刊消防、1月号、109, 2006.
85. 高田 純：大規模核災害時の線量の歴史的検証、第7回「環境放射能」研究会要旨論文集, 7, 2005.
86. Stepanenko, F.F., Hoshi, M., Yamamoto, M., Sakaguchi, A., Takada, J., Sato, H., Iaskova, E. K., Kolizshenkov., T.V., Kryukova, I. G., Apsalikov, K., Gusev, B. I., and Jungner, H.: International Intercomparison of Retrospective Luminescence Dosimetry Method: Sampling and Distribution of the Brick Samples from Dolon' Village, Kazakhstan, J. Radiat. Res., 47, suppl., A15-A21, 2006.
87. Sato, H., Hoshi, M. and Takada, J.: Intercomparison of Luminescence Measurements of Bricks from Dolon' Village: Experimental Methodology and Results from Japanese Laboratory, J. Radiat. Res., 47, suppl., A23-A28, 2006.
88. Endo, S., Hoshi, M., Takada, J., Takatsuji, T., Ejima, Y., Saigusa, S., Tachibana, T., and Sasaki, S. M.: Development, Beam Characterization and Chromosomal Effectiveness of X-rays of RBC Characteristic X-ray Generator, J. Radiat. Res., 47, 103-112, 2006.
89. 高田 純：「医療を取りまく放射線災害の現状と課題」、招待講演要旨、放射線防護分科会誌、23, 2-3, 2006.
90. 高田 純：「北朝鮮の核実験が日本へ与える放射線影響の予測と監視」、放射線防護医療 2, 1-2, 2006.
91. 高田 純：「地表核爆発を例とした大規模核災害と日本の課題」、放射線防護医療 2, 3-10, 2006.
92. 高田 純：「核災害時の線量理解に有効な線量6段階区分の表示」、放射線防護医療 2, 26, 2006.
93. 加茂憲一、高田 純：「核兵器テロ後のがん死亡被害予測」、放射線防護医療、2, 30-32, 2006.
94. 櫻井良憲、高田 純：「除染棟の性能と日本の法的規制との関係」、放射線防護医療 2, 36-38, 2006.
95. 高田 純：「大規模核災害時の線量の歴史的検証」、Proceedings of the seventh Workshop on Environmental Radioactivity, KEK Proceedings, 257-260, 2006-5, 2006.
96. Jiao, L., Takada, J., Endo, s., Tanaka, K., Zhang, W., Ivannikov, A., and Hoshi, M.: Effects of Sunlight Exposure on the Human Tooth Enamel ESR Spectra Used for Dose Reconstruction, J. Radiat. Res. 48(1). 21-29, 2007.
97. 高田 純：「核爆発災害 被害予測と政府の課題」、放射線防護医療 3, 1-9, 2007.
98. 櫻井良憲、加茂憲一、高田 純：「半導体素子の核放射線による損傷」、放射線防護医療 3, 31-33, 2007.
99. 加茂憲一、高田 純：「核兵器テロ後の発がんによる寿命短縮の予測」、放射線防護医療 3, 34-36, 2007.
100. Takada, J: Dose prediction in Japan for nuclear test explosions in North Korea, Applied Elsevier, Radiation and Isotopes, 1683-1685, 2008.
101. Takada, J: Dose prediction for surface nuclear explosions, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection, 2008.
102. Tanaka, K., Endo, S., Toyoda, S., Hino, Y., Romanyukha, A., Takada. J., Hoshi, M.: Study on measurement of radioactivity by imaging plate combined with its response

- correction by MCNP, Proceedings of the 12th International Congress of International Radiation Protection Association (IRPA12), 1-6., 2008.
103. 高田 純：「核エネルギー施設の安全と危機管理」、放射線防護医療 4、1-9, 2008. (査読有)
  104. 金盛正至、田中憲一、高田純、「臨界終息作業時の線量管理方法の考察」、放射線防護医療 4、29-33, 2008. (査読有)
  105. 田中憲一、高塚伸太郎、高田純：「被曝線量によるトリアージのための線量計 Radtriage の有効性検証」、放射線防護医療 4、34-36, 2008. (査読有)
  106. 田中憲一、加茂憲一、高塚伸太郎、高田純：「半導体素子の  $\gamma$  線照射による損傷」,放射線防護医療 5,32-35,2009. (査読有)
  107. 高田純：「広島平和公園の碑文は撤去すべし 犠牲者を冒瀆し、核兵器保有国の戦闘使用を是認する内容」,誇れる国、日本〔Ⅲ〕,APA GROUP,25-29,2010.
  108. 高田純：「ソ連と中国の核兵器開発に学ぶ核放射線防護」,放射線防護医療 6,1-8,2010.
  109. 田中憲一、櫻井良憲、加茂憲一、高塚伸太郎、高田純：「半導体素子の中性子  $\gamma$  線混合照射による損傷」,放射線防護医療 6,41-44,2010.
  110. Kanamori M, Suto T, Tanaka K, Takada J: A Study on Dose Evaluation for Tokaimura Criticality Accident Termination, JAEA-Technology 2010-025, 1-11, 2010
  111. K.Tanaka, S. Endo, M. Hoshi, J. Takada: Development of monitoring method of spatial neutron distribution in neutrons-gamma rays mixed field using imaging plate”, Challenges in Neutron Capture Therapy (Proc. of the 14th International Congress on Neutron Capture Therapy) (Edited by Sara Liberman et al.), (2010) 195-198, ISBN:978-987-1323-19-7.
  112. 高田純：「真の近現代史観」懸賞論文制度 最優秀 藤誠志賞「福島は広島にも チェルノブイリにもならなかった 東日本現地調査から見えた真実と福島復興の道筋」,4: 14-18, 2011
  113. Tanaka K, Takada J: Development of in-situ measurement for  $^{90}\text{Sr}$  specific activity by  $\beta$ -ray survey meter combined with sensitivity correction by Monte Carlo calculation, Appl Radiat Isot. 2011 May;69(5):814-7, 2011.
  114. 高田 純：東日本放射線衛生調査と福島復興に向けて～福島は広島にも～チェルノブイリにもならなかった～, 札幌医科大学 医療人育成センター紀要,3 号 15-20, 2011. <http://www.gepr.org/ja/contents/20120220-01/>
  115. 高田 純：東日本放射線衛生調査と福島第一原子力発電所 20km 圏の復興策,放射線防護医療 7 ,1-8, 2011.
  116. 高橋知幸、高田 純：原子炉の損傷 チェルノブイリ 4 号機と福島第一の違い,放射線防護医療 7 ,29-33, 2011.
  117. 田中憲一、高田 純： $\beta$  カウンターを用いた  $\text{Sr}90$  その場測定法の開発,放射線防護医療 7 ,37-40, 2011.
  118. 高田 純：チェルノブイリ原発事故と東海村臨界事故,日本臨牀,70(3):405-409, 2011.
  119. 高田 純：福島はチェルノブイリにも広島にもならなかった, Global Energy Policy Research, 2011.
  120. Kanamori M, Suto T, Tanaka K, Takada J: A study on dose control for Tokaimura criticality accident termination. Radiation Protection Dosimetry146 (1-3): 42-45, 2011

121. Tanaka K, Tateoka K, Asanuma O, Kamo K, Bengua G, Sato K, Ueda T, Takeda H, Takagi M, Hareyama M, Takada J, A dosimetry study of the Oncoseed 6711 using glass rod dosimeters and EGS5 Monte Carlo code in a geometry lacking radiation uilibrium scatter conditions, *Medical physics*, 査読有, 38 巻, 2011, 3069-3076
122. Tanaka K, Endo S, Hoshi M, Takada J, Development of monitoring method of spatial neutron distribution in neutrons-gamma rays mixed field using imaging plate for NCT-depression of the field, *Appl Radiat Isot*, 査読有, 69 巻, 2011, 1885-1887
123. Tanaka K, Takada J, Development of in-situ measurement for 90 Sr specific activity by  $\beta$ -ray survey meter combined with sensitivity correction, *Appl Radiat Isot*, 査読有, 69 巻, 2011, 814-817
124. 高田 純: 福島県、放射線量の現状 - 健康リスクなし、科学的計測の実施と愚かな政策の是正を, *Global Energy Policy Research*, <http://agora-web.jp/archives/1490913.html>, 2012
125. Takada J, Tanaka K, Sakurai Y: Damage of USB Semiconductor Memory by Radiation Exposure, *KURRI Prog Rep*, 査読有, 2011
126. 高田 純: 福島津波核災害の克服と日本の核エネルギー, *放射線防護医療* 8 , 1-9, 2012.
127. 高橋知幸、高田 純: 核爆発と原子炉実験, *放射線防護医療* 8 , 43-46, 2012
128. 田中憲一、櫻井良憲、高田 純: 半導体機器の中性子  $\gamma$  線混合照射による損傷, *放射線防護医療* 8 , 47-50, 2012
129. 高田 純: 人間と牛に関する福島県放射線衛生調査 低線量で健康被害なし, *札幌医学雑誌*, 81 巻, 1-5, 2012
130. 田中憲一、櫻井良憲、遠藤 暁、高田 純: イメージングプレートを用いた NCT 用線質弁別二次元分布測定法の開発, *Proceedings of 2012 Fall Meeting of Atomic Energy Society of Japan*, 386, 2102
131. Takada J: Chernobyl nuclear power plant accident and Tokaimura criticality accident, *Nippon rinsho . Japanese journal of clinical medicine* , 70(3):405-9, 2012
- 
132. K. Tanaka, K. Tateoka, O. Asanuma, S. Endo, K. Sato, H. Takeda, K. Kamo, M. Hori, M. Hareyama, J. Takada: Measurement of strength of the source being implanted for brachytherapy”, The coverage of imaging and therapy (Proceedings of the 10th South East Asian Congress of Medical Physics and the 12th Asia Oceania Congress of Medical Physics), 321-322, 2012
133. K. Tanaka, Y. Sakurai, S. Endo, J. Takada, “Study on detecting spatial distribution of neutrons and gamma rays using multi imaging plate system”, Abstracts of 15th International Congress on Neutron Capture Therapy”, p48, 2012
134. M. Yamamoto, M. Hoshi, J. Takada, A. Sakaguchi, K. N. Apsalikov, B. I. Gusev: Current levels and distribution of 137Cs and Pu isotopes in soil on the Kazakhstan territory of the Kazakhstan-Chinese border: Semipalatinsk and Lob Nor nuclear test sites detonation , *Journal of Radioanalytical and Nuclear Chemistry* , 261(3):533-545, 2012
135. 村端祐樹, 高田 純: 紫外線量の多い地域では大腸癌死亡率は低い, *札幌医科大学 医療人*

育成センター紀要 4 号, 17-20, 2013

136. Tanaka K , Takada J :Development of collimator for in-situ measurement of  $^{90}\text{Sr}$  specific activity by  $\beta$ -ray survey meter and Monte Carlo calculation, 77:1-4, 2013
137. K. Tanaka, K. Tateoka, O.Asanuma, K. Kamo, K. Sato, H. Takeda, M. Takagi, M. Hareyama, J. Takada :Benchmark of EGS5 for  $^{125}\text{I}$  brachytherapy in comparison to glass rod dosimeter and treatment planning system using AAPM-TR43U1 formalism, proceedings of workshop on computational medical physics (ICRS12 & RPSD-2012) , 2013
138. K. Tanaka, K. Tateoka, O. Asanuma, K. Kamo, K. Sato, H. Takeda, M. Takagi, M. Hareyama, J. Takada: Verification of dose calculation for brachytherapy using EGS5, High Energy Accelerator Research Organization, 94-97, 2013
139. Tanaka K, Endo S, Tateoka K, Asanuma O, Kamo K, Sato K, Takeda H, Takagi M, Hareyama M, Takada J: Measurement of the strength of iodine-125 seed moving at unknown speed during implantation in brachytherapy, J Radiat Res (2013) doi: 10.1093/jrr/rrt087 First published online: June 30, 2013
140. Takada J :Low Dose Radiation and No Health Risk in Fukushima in Contrast to Chernobyl, Genes and Environment, 35(3):69-72, 2013
- 
141. 高田 純 : 人間と牛に関する福島県放射線衛生調査 低線量で健康被害なし, 札幌医学雑誌 81(1-6), 1-5 , 2012  
高田 純 : 人は放射線なしに生きられない 福島低線量率放射線の意味 : 健康プラス効果の範囲, 放射線防護医療 9 , 1-12, 2013
142. 中村泰幸, 高田 純 : 北海道における太陽光曝露不足による大腸がん死亡率の増加, 札幌医科大学 医療人育成センター紀要 5 号, 27-35, 2014.
143. 高田純 : 時論 福島 20km 圏内帰還困難区域の設定に誤り 科学にもとづく福島復興なしに, オリンピック成功なし, 日本原子力学会誌 ATOMOS, 2014 年 56 巻 4 号 p. 220-221.
144. K. Tanaka, K. Tateoka, O. Asanuma, K. Kamo, K. Sato, H. Takeda, M. Takagi, M. Hareyama, J. Takada “A dosimetry method for low dose rate brachytherapy by EGS5 combined with regression to reflect source strength shortage”, *Journal of Radiation Research*, 55 (2014) 608-612, doi: 10.1093/jrr/rrt147.
145. K. Tanaka, S. Sakurai, S. Endo, J. Takada, “Study on detecting spatial distribution of neutrons and gamma rays using multi imaging plate system”, *Applied Radiation and Isotopes*, 88 (2014) 143-146.
146. K. Tanaka, S. Endo, K. Tateoka, O.Asanuma, K. Kamo, K. Sato, H. Takeda, M. Takagi, M. Hareyama, J. Takada, “Measurement of the strength of iodine-125 seed moving at unknown speed during implantation in brachytherapy”, *Journal of Radiation Research*, 55 (2014) 162-167, doi: 10.1093/jrr/rrt087.
147. K. Tanaka, K. Tateoka, O.Asanuma, K. Kamo, K. Sato, H. Takeda, M. Takagi, M. Hareyama, J. Takada “Benchmark of EGS5 for  $^{125}\text{I}$  brachytherapy in comparison to glass rod dosimeter and treatment planning system using AAPM-TR43U1 formalism”, *Progress of Nuclear Science and Technology (proceedings of workshop on computational medical physics (ICRS12 & RPSD-2012))* 4, (2014), pp. 888-890



147. 高田 純：福島県民線量調査の決定版 低線量の真実、20 km圏内も帰還できる, 放射線防護医療 10, 1-8, 2015
148. Kenichi. Tanaka, Kenich. Kamo, Kunihiko.Tateoka, Osamu.Asanuma, Kaori.Sato, Hiromitsu.Takeda, Koh-ichi.Sakata, Jun.Takada, “A comparison of the dose distributions between the brachytherapy. I source models, STM1251 and Oncoseed 6711, in a geometry lacking radiation equilibrium scatter conditions”, *Journal of Radiation Research*, 56 (2015) 366-371, doi: 10.1093/jrr/rrt088.
149. Jun Takada, Definitive Results form Fukushima Dosimetry Survey, The reality of the low radiation dose: returning to the 20km zone is possible, *Journal of Radiation Protection Medicine* 11 1-10, (2015)
150. Chief Editor Jun Takada: 「Journal of Radiation Protection Medicine」 Proceedings of SAMRAI2014, Scientific understanding of low dose-rate radiation in Fukushima and the issue of rehabilitation in the 20km zone (「放射線防護医療 11, SAMRAI2014 論文集英語訳, 福島の高線量率放射線の科学認識と 20 km圏内の復興, 放射線防護医療研究会」), 2015
151. 高田 純：三内丸山縄文村に近接する 6 0 0 0 年前の海岸線の形, 札幌医科大学 医療人育成センター紀要 7 号, 7-12, 2016
152. 高田 純：縄文早期以後の北海道人口密度, 札幌医科大学 医療人育成センター紀要 8 号, 29-36, 2017
153. 高田純： 日本人抑留者はソ連核開発の捨て駒にされた！、WILL, 2018 年 7 月号。
154. 高田純： 北海道冬季大停電事態の人命リスクと 原子力発電所再稼働 FBNews, 6-10, 千代田テクノル、2019.
155. 高田純：北海道森町環状列石周辺の縄文時代以後の人口密度、札幌医科大学 医療人育成センター紀要 10 号, 5-12, 2019
156. 佐久間 裕也, 高田 純：北海道冬季大停電時における循環器系・呼吸器系疾患の死亡リスク推計, 札幌医科大学 医療人育成センター紀要 11 号, 5-14, 2020.
157. 高田純：疑惑の凶弾二発は空砲だった！？ WILL・ワック出版、12 月号、2022.

## V 国際学会の proceedings

1. Fukada N., Takada J., Yamaguchi M., and Tawada Y.. Thermal degradation of a-Si:H solar cells. Tech. Digest of 1st Int'l PVSEC in Kobe. 229-232, 1984.
2. Tawada Y., Takada J., Fukada N., Yamaguchi M., Yamagishi H., Kondo M., Hosokawa Y., Tsuge K., Nakayama T. and Hatano I.: A new stable a-SiC/a-Si heterojunction solar cells. Proc. The 18th IEEE photovoltaic Specialists Conf., 1712-1713, 1985.
3. Tsuge K., Kuwamura S., Kondo M., Nishimura K., Yamaguchi M., Hosokawa Y., Yamagishi H., Takada J., Nakayama T., Fukada N., and Tawada Y.: Fabrication and characteristics of a-Si:H solar cell module. Proc. the 18th IEEE photovoltaic Specialists Conf., 929-932, 1985.
4. Tawada Y., Takada J., Yamaguchi M., Yamagishi H., Hosokawa Y., Hiroe A., Kondo M., Asaoka K., Fukada N., and Tsuge K.: Stability of amorphous silicon solar cells. New tandem a-Si solar cell. Proc. Mat. Res. Soc. Sym., 1170, 587-598, 1986.
5. Tawada Y., Takada J., Yamagishi H. and Tsuge K.: Development of flexible a-SiC/a-Si heterojunction solar cells and stable a-SiC/a-Si tandem cells with blocking barriers, SPIE, 706, 94, 1986 .
6. Takada J., Yamaguchi M., Fukada N., Nishimura K., Yamagishi H., Hirose A., and Tawada Y.: Development of new stable a-Si:H thin film device. Proc. 21th Intersociety Energy Conversion Engineering Conference. 1292-1299, 1986,.
7. Yamagishi H., Takada J., Fukada N., Yamaguchi M., Nishimura K., Hiroe A., Kondo M., Hosokawa Y., Tsuge

- K., Nakayama T., and Tawada Y.: Noble stability of a-SiC/a-Si tandem solar cell with blocking barriers. Proc. the 2nd Int. Photovoltaic Science and Engineering Conference, 365-368, 1986.
8. Yamagishi H., Takada J., Yamaguchi M., Hiroe A., Nishimura N., Mizukami S., and Tawada Y.: Optimization of stable a-SiC/a-Si Tandem Solar Cell With Blocking Barriers. Proc. 7th E.C. Photovoltaic Solar Energy Conf., 430-434, 1986.
  9. Takada J.: Fritzsche H.. Change of drift mobility in a-Si:H with light exposure and doping. Proc. Mat. Res. Soc., 95, 571-576, 1987.
  10. Takada J., Mazaki H., Terashima T., Iijima K., Yamamoto K., Hirata K. and Bando Y.. Tunnel junction using single crystal films of YBa<sub>2</sub>Cu<sub>3</sub>O<sub>7-x</sub> superconductor. Extended Abstracts of 20th International Conference on Solid State Device and Materials 1988: 455-458.
  11. Bando Y., Terashima T., Iijima K., Yamamoto K., Takada J., Hirata K., and Mazaki H.: Low temperature growth of high T<sub>c</sub> oxide superconductors. Extended Abstracts of 20th International Conference on Solid State Device and Materials, 419-422, 1988:
  12. Fritzsche H., Yang S. H., and Takada J.: Metastable non-equilibrium conductance states in doping-modulated a-Si:H Multilayers. Proc. Mat. Res. Soc. Symp., 118, 275-284, 1988.
  13. Takada J., Terashima T., Bando Y., Mazaki H., Iijima K., Yamamoto K. and Hirata K.: Tunneling in e-beam evaporated high-T<sub>c</sub> superconducting thin film. Processing of films for High T<sub>c</sub> Superconducting Electronics, SPIE Vol. 1187, 314-324, 1989. (招待論文)
  14. Takada J., Terashima T., Bando Y., Mazaki H., Iijima K., Yamamoto K., and Hirata K.: "Tunneling in e-beam evaporated high-T<sub>c</sub> superconducting thin film". SPIE High T<sub>c</sub> Superconducting Electronics 1989.
  15. Takada J., Awaji H., Koshioka M., Nakajima A., Nevin W. A., Imanishi M., and Fukada N.: Organic-inorganic multilayers as an approach to intelligent materials. The 3rd IUMRS International Conference on Advanced Materials, Tokyo, 15A, 667-670, 1993.
  16. Takada J.: Organic-inorganic hetero nanosystems as an approach to molecular optoelectronics. International Workshop on Nano Molecular Electronics, Kobe, 1994
  17. Takada J., Yamamoto T., Watanabe M., and Takagi T.: Organic-Inorganic Hetero Nanosystems Consisting of C<sub>60</sub> and Ceramics. The 3rd Asia-Pacific Workshop on Intelligent Materials & The 4th Symposium on Intelligent Materials, Extended Abstracts, 61, 1995.
  18. Hoshi M., Takada J., Oka T., Iwatani K., Shizuma K., Hasai H.: A possible explanation for the DS86 discrepancy between the data and calculation in Hiroshima. Nagasaki Symposium Radiation and Human Health. Proposal from Nagasaki. Proceedings of the Nagasaki Symposium '95, 50th Anniversary Meeting of the Atomic Bombing in Nagasaki, 175-191, 1996.
  19. Takada J., Hoshi M., Yamamoto T., Watanabe M., Takagi T.: Optoelectronic functions in organic-inorganic hetero nanosystems. Optoelectronic functions in organic-inorganic hetero nanosystems. Third International Conference on Intelligent Materials. Proc. Of the international conference on Intelligent Materials, SPIE2229, 788-793, 1996.
  20. Takada J., Hoshi M., Endo S., Yamamoto M., Nagatomo T., Gusev B. I., Rozenson R. I., Apsalikov K. N., Tachaijunusova N. J.: Thermoluminescence dosimetry of gamma rays from the fallout of the Semipalatinsk nuclear tests. Effects of Low-level Radiation for Residents Near Semipalatinsk Nuclear Test Site. Proceeding of the Second Hiroshima International Symposium, Hiroshima, July 23-25, 1996, Edit. by M. Hoshi, J. Takada, R. Kim, and Y. Nitta, Hiroshima Univ., 195-199, 1997.
  21. Stepanenko V.F, Tsyb A.F., Kondrashov A.V., Hoshi M. Takada J. et al.: Retrospective Thyroid absorbed doses estimation in Russia following the Chernobyl accident: Progress and application todosimetrical evaluation of childhood thyroid cancer morbidity. Effects of Low-level Radiation for Residents Near Semipalatinsk Nuclear Test Site. Proceeding of the Second Hiroshima International Symposium, Hiroshima, July 23-25, 1996, Edit. by M. Hoshi, J. Takada, R. Kim, and Y. Nitta, Hiroshima Univ., 31-84, 1997.
  22. Takada J., Hoshi M., Nagatomo T., Guzev B. et al.: Thermoluminescence dosimetry study in Semipalatinsk. The 2<sup>nd</sup> International conference on "Ecology-Radiation-Health", Semipalatinsk, 1998.
  23. Takada J., Sharov V., Konstantinov Yu. O., Ramzaev P. V., Moroz G., Kovtun A., Hoshi M., Bougrov N. G.,

- Shishkina H. A., Premyslova L., Shagina N., Degteva M. O.: Mission for the study of radiation protection and hygiene for residents around Mayak plutonium production facilities in Russia 2000: Distribution and Speciation of Radionuclides in the Environment. Proceedings The International Workshop on Distribution and Speciation of Radionuclides in the Environment. Edt.by J. Inaba, S. Hisamatsu & Y. Ohtsuka, Institute for Environmental Sciences, 233-238, 2000.
24. Takada J., Yamamoto M., Hoshi M.: Radiological states in Rongelap Island 1999. Low-level Measurements of Actinides and Long-lived Radionuclides in Biological and Environmental Samples, Oarai, 2000.
  25. Takada J., Sharov V., Konstantinov Yu. O., Ramzaev P. V., Moroz G., Kovtun A., Hoshi M., Bougrov N. G., Shishkina H. A., Premyslova L., Shagina N., Degteva M. O.: Mission for the study of radiation protection and hygiene for residents around Mayak plutonium production facilities in Russia 2000. The International Workshop on Distribution and Speciation of Radionuclides in the Environment, Rokkasho, Aomori, 2000.
  26. Takada J., Hoshi M. and Yamamoto M.. External doses in Residential areas around Semipalatinsk nuclear test site, WHO workshop on dosimetry of the populations living the proximity of the Semipalatinsk nuclear weapons test site, Helsinki, 2001.
  27. Yamamoto M., Hoshi M., Takada J., et al.: Some aspects of plutonium in and around the former Soviet Union's Semipalatinsk nuclear test site. Proceedings of the Second Invited International Symposium vol.1: Plutonium in the Environment. (kudo, A. editor), 375—399, 2001.
  28. Ivannikov A., Zhumadilov Zh., Gusev B., Takada J. and Hoshi M.: Individual dose reconstruction by tooth enamel SPR spectroscopy for population of the areas close to Semipalatinsk Nuclear Test Site. International Symposium on New Prospects of ESR Dosimetry and Dating, Oct.25—27, 2001.
  29. Yamamoto M., Hoshi M., Takada J., et al.: Plutonium fallout in the environment around the former Soviet Union's Semipalatinsk nuclear test site. Workshop on dosimetry of the population living in the proximity of the Semipalatinsk atomic weapons test site, STUK-A187 (eds. By Lindholm C., Simon S., Makar B., Baverstock E.), Feb. 17-27, 2002.
  30. Takada J., Hoshi M., Yamamoto M.: External dose residential areas around Semipalatinsk nuclear test site. Workshop dosimetry of the population living in the proximity of the Semipalatinsk atomic weapons test site, STUK-A187: 69-77, 2002. (招待論文)
  31. Orlov M., Stepanenko V., Takada J. and Hoshi M.: Necessary accuracy of the dose estimation. The second International workshop on space radiation research (IWSSRR-2), March 11—15, Nara, Japan, 2002.
  32. Hoshi M., Stepanenko V. F., Gavrilin Y. I., Volkov Y., Makarenkova I. K., Takada J., Shevchuk V. E., Skvortsov V. G., Penin D. V., Iaskova E. K., Kondrashov A. E., Ivannikov A. I., Ermakova N. M. and Chunikhin L. N.: I-129 and I-131 ground deposition densities are correlated in Belorussian settlements contaminated following the Chernobyl accident. Chernobyl: Message for the 21st Century. Proceedings of the Sixth Chernobyl Sasakawa Medical Cooperation Symposium, Moscow, Russia, 30-31 May 2001, eds. by Yamashita, S., Shibata, Y., Hoshi, M., Fujimura, K. Elsevier, 115-120, 2002.
  33. 高田 純. セミパラチンスクと世界の核被災地—過去の放射線被曝の実相と環境の回復— . 第7回広島国際シンポジウム, 2002.
  34. Stepanenko V. F., Gavrilin Y. I., Khrouch V. T., Shinkarev S. M., Hoshi M., Iaskova E. K., Kondrashov A. E., Penin D. V., Moskovko L. I., Takada J., Skvortsov V. G., Orlov M. Y., Ivannikov A. I., Ermakova A. F., Tsyb A. F., Proshin A. D. and Rivkind N. B.: Re-evaluation of thyroid doses in Russia after the Chernobyl accident. Chernobyl. Message for the 21st Century. Proceedings of the Sixth Chernobyl Sasakawa Medical Cooperation Symposium, Moscow, Russia, 30-31 May 2001, eds. by Yamashita, S., Shibata, Y., Hoshi, M., Fujimura, K. Elsevier, 321-328, 2002.
  35. Orlov M., Stepanenko V., Hoshi M. and Takada J.: Estimation of background dose value for TL-dosimetry technique:. The Seventh Hiroshima International Symposium, Feb.15, Hiroshima, Japan, 2002.
  36. 高田 純, K. Sh, ズマジリョフ, V. E. ステパノフ, 今中哲二, 高辻俊宏, 大塚良仁, 山本政儀, 吉川勲, 星正治: 爆心地の放射線調査、KEK Proceedings 2002-7, 259-264, 2002.
  37. Orlov M., Stepanenko V., Hoshi M. and Takada J.: Contemporary radioactive contamination of Altai region

(Russia) territory after atmospheric nuclear explosions at the Semipalatinsk test site. The Seventh Hiroshima International Symposium, Feb.15, Hiroshima, Japan, 2002.

38. Takada J.: Understanding on Nuclear Disasters and Hazards in Semipalatinsk Region. Proceeding of the 8th Hiroshima International Symposium, Feb. 28, 2003.
39. Takada, J.: Dose prediction for surface nuclear explosions, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Oct.19-24, 2008.
40. Tanaka, K., Endo, S., Toyoda, S., Hino, Y., Romanyukha, A., Takada, J., Hoshi, M.: Study on measurement of radioactivity by imaging plate combined with its response correction by MCNP, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Oct.19-24, 2008.
41. Sakurai, Y., Kamo, K., Takada, J.: Experiments for Semiconductor Memory Damage due to Nuclear Radiation, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Argentina, Oct.19-24, 2008.
42. Kamo, K., Takada, J.: Cancer Mortality Estimate of Survivors with High Doses by Using Lifetime Table, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Oct.19-24, 2008.
- 43.

## VI 学会発表・講演会(招待講演、シンポジウム、ワークショップ、特別講演)

1. 高田 純: "光電子材料としての有機無機複合多層膜". 日本化学会近畿支部神戸地区講演会 1994. (招待講演)
2. 高田 純: 有機-無機ヘテロナノシステムとイオンビーム技術. 工業技術院, 物質・材料研究総合推進会議 平成6年度第2回シンポジウム, 新物質・新材料合成のためのプロセッシング. 1994.
3. 高田 純: 有機-無機ヘテロナノシステム. 日本工業技術振興協会, 超分子膜研究会 1995.
4. 高田 純: 有機-無機ヘテロナノシステムによる分子オプトエレクトロニクス. 第56回応用物理学会学術講演会, 有機ナノ構造の電子光物性シンポジウム, 金沢, 1995.
5. 高田 純, 星 正治, 渡辺正則, 高木俊宜: 有機-無機ヘテロナノ構造による光電子 機能の実現. 第57回応用物理学会学術講演会シンポジウム, 博多, 1996.
6. 高田 純: 生物高度分子機能システムと人工ヘテロ構造. インテリジェント材料フォーラム, 第14回ワークショップ, 広島, 1996.
7. 高田 純: 有機・無機ヘテロナノスペース. 平成8年度集中型移動研究室「真空を利用した気相からの先端無機薄膜材料の創製」, 大阪, 1997.
8. 高田 純: 世界の放射線被曝地、広島大学公開講座「放射線と放射能、四方山話」2000年12月13日放送、文部省委嘱エルネットオープンカレッジ、高等教育情報化推進協議会, 2000.
9. 高田 純, 菅 真治, 北川和英, 石川正純, 星 正治: 東海村 JCO 臨界事故 350m 避難区域住民の被曝線量. 第43回日本放射線影響学会, 東京 シンポジウム, 2000.
10. 高田 純, 菅 真治, 北川和英, 石川正純, 星 正治: JCO 臨界事故における漏えい中性子の方向分布. 第37回理工学における同位元素研究発表会, 東京, 2000.
11. 高田 純: (パネルディスカッション) 事故被曝時の医療のあり方. 第4回放射線事故医療研究会・緊急被ばく医療フォーラム, 神戸, 2000.
12. 高田 純: セミパラチンスクでの旧ソ連核実験による住民の被曝. 日本放射化学会神戸, 2000. (特別講演)
13. 高田 純: 漏えい放射線の異方性と 350m 避難区域住民の被ばく線量. 第28回放医研環境セミナー-ウラン加工工場臨界事故に対する環境測定・線量推定-, 千葉, 2000.
14. 高田 純: 核燃料サイクルにおける放射線影響研究. 日本放射線影響学会ワークショップ「21世

紀の核燃料サイクルと公衆の放射線防護」, 大阪, 2001.

15. 高田 純: セミパラチンスク旧核実験場周辺住民の外部被曝線量. カザフスタン—日本線量専門家会合, 放射線影響協会, 東京, 2001.
16. 高田 純: 世界の放射線被曝地, 第3回夏の学校 環境放射能放射線ワークショップ, 7月22日-24日, 生口島, 2001.
17. 高田 純、Zhumadilov, K. Sh., 高辻俊宏、山本政義、今中哲二、星 正治: 旧ソ連地上核爆発地点調査. 日本放射線影響学会第45回大会、仙台、2002年9月18-20日.
18. Takada J.: Understanding on Nuclear Disasters and Hazards in Semipalatinsk Region. Proceeding of the 8th Hiroshima International Symposium, Feb. 28, 2003.
19. 高田 純: 1キロトン核兵器の地上爆発による放射線被曝と防護、第44回原子爆弾後障害研究会、広島、2003年6月.
20. 高田 純: 海藻類による甲状腺放射線防護法(1)、日本保健物理学会 第37回研究発表会、千葉、2003年6月.
21. 高田 純: 個人線量計RAD-60Sの特性、第40回理工学における同位元素放射線研究発表会、東京、7月、2003.
22. 高田 純: 核災害の調査と公衆の放射線防護、第5回夏の学校 環境放射能放射線ワークショップ、長崎県川棚町、2003年8月6日-8日.
23. 焦 玲、高田 純、星 正治: Effect of sunlight irradiation on ESR signals of human tooth enamel. 第5回夏の学校「環境放射能・放射線ワークショップ」、長崎県川棚町、8月6-8日、2003.
24. 高田 純: その後のマーシャル諸島の放射線環境、日本放射線影響学会、第46回大会; シンポジウム、京都、2003年10月6日-8日.
25. 高田 純: 環境線量評価、平成15年度緊急被ばく医療フォーラム、仙台、2003年8月.
26. 高田 純、竹崎嘉彦、早川式彦、鎌田七男、星 正治、田中公夫、今中哲二: 広島近距離生存者の線量回避、日本放射線影響学会ワークショップ、長崎市、2004年11月25-17日.
27. 高田 純: 核兵器テロに対する公衆の放射線防護、第5回環境放射能研究会、つくば、2004年3月2日-4日.
28. 高田 純: 世界とわが国の核災害およびそれからの回復と復興、シンポジウム「核災害からの復興と原子力の平和利用における今後の課題」—ビキニ被災50周年を記念して、日本学術会議、東京、2004年8月6日.
29. Takada, J.: Radiation Hazard and Protection for the Nuclear Weapon Terrorism, 6th International Conference on High Levels of Natural Radiation and Radon Areas, Osaka, Japan, Sep.6-10, 2004.
30. 高田純: 核災害からの復興(広島と海外の調査から)、エネルギー講演会、中国地域エネルギーフォーラム、広島市、2004年10月28日.
31. 高田 純: 核ハザードの環境および社会影響、第6回環境放射能研究会、つくば市、2005年3月8日-10日.
32. 高田 純: 基調講演「放射線防護医療研究の推進」、第1回放射線防護医療研究会、札幌、2005年11月21日.
33. 高田 純: 被核武力攻撃事態における医療対応、第49回北部防衛衛生学会・特別講演、札幌、2006年2月2日.
34. 高田 純: 大規模核災害時の線量の歴史的検証、第7回「環境放射能」研究会、つくば、2006年3月7-9日.
35. 高田 純: パネリスト・小型核兵器・放射性物質によるテロ、保健物理・環境科学部会企画セッション「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」、日本原子力学会 2006

年春の年会、大洗市、2006年3月24日-25日。

36. 高田 純、高田靖司、小木曾力、大野紀和、寺島良治、酒井英一、村肇、白石久仁雄、V. シャロフ、M. O. デグデバ：前歯ベータ線計測率測定による Sr-90 内部被曝線量評価、第40回保健物理学会、広島、2006年6月8日-9日。
37. 高田 純：医学部および医学研究科における核と放射線の物理教育、第43回アイソトープ・放射線研究会発表会、東京、2006年7月5日-7日。
38. 高田 純：チェルノブイリ原子力発電所事故が生じた核ハザード、第49回日本放射線影響学会ワークショップ、札幌市、2006年9月6-8日。
39. 高田 純：基調講演「地表核爆発を例とした大規模核災害と日本の課題」、第2回放射線防護医療研究会、札幌市、2006年11月29日。
40. 高田 純：地下核実験からの漏洩線量 北朝鮮の場合の予測と結果、第8回「環境放射能」研究会、つくば、2007年3月22日-24日。
41. Takada, J.: Dose prediction in Japan for nuclear test explosions in North Korea, International Conference on Environmental Radioactivity-From Measurements and Assessments to regulation, Organized by IAEA, Vienna, Austria, April 23-27, 2007.
42. 高田 純：基調講演「核爆発災害 被害予測と政府の課題」、第3回放射線防護医療研究会、札幌市、2007年11月14日。
43. Takada, J.:Dose prediction for surface nuclear explosions, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Oct.19-24, 2008.
44. Tanaka, K., Endo, S., Toyoda, S., Hino, Y., Romanyukha, A., Takada, J., Hoshi, M.:Study on measurement of radioactivity by imaging plate combined with its response correction by MCNP, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Oct.19-24, 2008.
45. Sakurai, Y., Kamo, K., Takada, J.: Experiments for Semiconductor Memory Damage due to Nuclear Radiation, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Argentina, Oct.19-24, 2008.
46. Kamo, K., Takada, J.:Cancer Mortality Estimate of Survivors with High Doses by Using Lifetime Table, 12<sup>th</sup> International Congress of the International Radiation Protection Association, Buenos Aires, Oct.19-24, 2008.
47. Jun Takada:Chinese nuclear explosion disasters in East in East Turkestan, The 10<sup>th</sup> Asia Pacific Conference on Disaster Medicine, Sapporo, Aug. 26-28, 2010
48. 高田 純：「福島周辺 札幌～青森～仙台～福島～東京の東日本の核放射線状況の今を報告 福島では絶対に核爆発はない！チェルノブイリのようにはない理由」、シーメット医総研主催 放射線防護のための現地調査・緊急報告会、東京、2011年4月10日。
49. 高田 純：「東日本放射線衛生調査」、新宿医師会主催 調査報告会、東京、2011年4月11日。
50. 高田 純：「昭和天皇の核兵器に対する大御心と平成の課題」、昭和の日記念講演会、大阪、平成23年4月29日（招待講演）
51. 高田 純：「中国の核の脅威と日本の防衛－福島復興は試金石 私達は負けない」、第11回憲法講演会、福岡、平成23年5月3日（招待講演）
52. 高田 純：「私たちは負けない－東日本放射線衛生調査の報告」、河内国民文化研究会主催救国講演会、東京、平成23年5月28日（招待講演）

53. 高田 純：「福島復興は試金石、私たちは負けない」，第 63 回救国救世世界戦略総合研究所定例会，東京，平成 23 年 6 月 17 日（招待講演）
54. 高田 純：「東日本放射線衛生調査の報告 ～福島復興は試金石、私たちは負けない～」，福島を人道科学で支援する会チャリティー講演会，札幌，平成 23 年 6 月 24 日（講演）
55. 高田 純：「福島 嘘と真実」，福島を人道科学で支援するシンポジウム，東京，平成 23 年 7 月 11 日（講演）
56. 高田 純：「福島の復興と再生を目指した科学提言」，福島を人道科学で支援するシンポジウム，東京，平成 23 年 7 月 27 日（基調講演）
57. 高田 純：「福島 嘘と真実 いわき市における放射線衛生上のリスク」，市民フォーラム 救急医・いわき 2011（共催：いわき市病院協議会・いわき市医師会・いわき市），いわき市、2011 年 9 月 3 日（特別講演）
58. 高田 純：「福島 嘘と真実 東日本放射線衛生調査からの報告」，科学講演会，福井，平成 23 年 9 月 23 日（招待講演）
59. 高田 純：「福島発放射能汚染の実態」，科学講演会，宮城，平成 23 年 10 月 1 日（招待講演）
60. 高田 純：「放射能これだけ知れば怖くない！」，科学講演会，福島，平成 23 年 10 月 2 日（招待講演）
61. 高田 純：「放射線・放射能の心配に全て答える」，第 33 回関西防衛を支える会，富山，平成 23 年 10 月 15 日（特別講演）
62. 高田 純：「これだけ知れば怖くない！ 誤解だらけの”放射線”」，放射線科学講演会，大阪，平成 23 年 11 月 5 日（講演）
63. 高田 純：「原発事故が起こった今、放射線教育を学校・社会でいかに進めるか」，NPO 法人放射線教育フォーラム 2011 年度第二回勉強会，東京，平成 23 年 11 月 19 日（特別講演）
64. 高田 純：「福島の放射線衛生調査からの報告 低線量で健康被害は発生しない」，第 53 回神奈川医学会総会・学術大会，神奈川、2011 年 11 月 23 日。（特別講演）
65. 高田 純：「福島は広島にもチェルノブイリにもならなかった 東日本現地調査から見えた真実と福島復興の道筋」，誇れる国、日本[IV]出版記念パーティ、東京都、2011 年 12 月 8 日。（特別講演）
66. 高田 純：「東日本放射線衛生調査と福島第一原子力発電所 20km 圏の復興策」，第 7 回放射線防護医療研究会、札幌市、2011 年 12 月 12 日。（基調講演）
67. 高田 純：「真実を知ろう 福島の放射線」，文京区倫理法人会，文京区中央倫理法人会 合同イブニングセミナー，東京，平成 23 年 12 月 16 日（講演）
68. 高田 純：「放射線と健康 自然放射線と生命、医療と核災害」，放射線セミナー，東京，平成 24 年 1 月 20 日（講演）
69. 高田 純：「放射線と健康 自然放射線と生命、医療と核災害」，放射線セミナー，大阪，平成 24 年 3 月 4 日（講演）
70. 高田 純：「真実を知ろう 福島の放射線」，こころとからだ健康フェスタ 2012，東京，平成 24 年 3 月 31 日（招待講演）
71. 高田 純：「福島の放射線は低線量」，第 11 回勝兵塾月例会，東京，平成 24 年 4 月 19 日（招待講演）
72. 高田 純：「放射線科医に必要な被ばくの知識」，第 22 回青葉画像研究会，宮城，平成 24 年 5 月 11 日（招待講演）
73. 高田 純：「In-situ dose evaluations for fukushima population in 2011 reveal a low

- doses and low dose rates nuclear incident」, 13th International Congress of the International Radiation Protection Association, Glasgow ,2012年5月13日
74. 高田 純：「福島放射線は低線量」, NPO イーマ (国家ビジョン研究会), 東京都, 平成24年5月25日 (招待講演)
  75. 高田 純：「福島放射線衛生調査結果の報告 チェルノブイリ原子炉事故との比較」, 平成24年度 日本環境変異原学会, 東京都 (慶応義塾大学), 平成24年5月26日 (招待講演)
  76. 高田 純：「東日本放射線衛生調査からの報告」, 平成24年度 中部電力株式会社主催 講演会, 静岡, 平成24年5月29-30日 (招待講演)
  77. 高田 純：講演「環境放射線について」, 平成24年度環境講演会、香川、2012年6月5日 (招待講演)
  78. 高田 純：講演「福島は広島にもチェルノブイリにもならなかった」, 第14回中川ただあきと共に考え語る会、富山、2012年6月14日 (招待講演)
  79. 高田 純：講演「福島原発事故被災地放射線調査」, 渡辺芳邦県政報告会・高田純教授 放射線防護学セミナー、千葉、2012年7月7日 (招待講演)
  80. 高田 純：シンポジウム「Individual dose investigations for internal and external exposures in Fukushima prefecture」, The first NIRS symposium on reconstruction of early internal dose due to the TEPCO Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident、千葉、2012年7月10日
  81. 高田 純：「東日本放射線衛生調査からの報告 福島は低線量で健康被害なし」 日本機能性イオン協会 第11回定例総会 記念講演、東京、2012年7月13日 (招待講演)
  82. 高田 純：「3.11以後の核をめぐるわが国の状況と平成の課題」 平成24年夏 日本再生のための愛国救国の国民大会、札幌大会、札幌、2012年7月20日 (基調講演)
  83. 高田 純：「3.11以後の核をめぐるわが国の状況と平成の課題」 平成24年夏 日本再生のための愛国救国の国民大会、東京大会、東京都、2012年7月26日 (基調講演)
  84. 高田 純：「3.11以後の核をめぐるわが国の状況と平成の課題」 平成24年夏 日本再生のための愛国救国の国民大会、大阪大会、大阪、2012年8月19日 (基調講演)
  85. 高田 純：「福島 嘘と真実～福島は、低線量で健康被害なし～」 伊勢新聞政経懇話会、三重、2012年9月28日 (招待講演)
  86. 高田 純：「今こそ日本の核アレルギーを糺す 一福島は低線量で健康被害なし」 世日倶楽部 講演会、東京、2012年10月18日 (招待講演)
  87. 高田 純：「楼蘭から尖閣諸島へ至るシルクロード、シルクロード3国の災いは、対岸の火事ではなかった、福島のこと、尖閣のこと、偽装反核運動のこと」 関東懇談会、東京、2012年10月19日 (講演)
  88. 高田 純：「福島は低線量で健康被害なし 守ろう！ 日本のエネルギー」 頑張れ日本 全国行動委員会 京都府本部講演会、京都、2012年11月10日 (招待講演)
  89. 高田 純：「福島 嘘と真実」、自由民主党千葉県支部連合会主催：講演会、千葉、2012年11月28日 (講演)
  90. 高田 純：「福島県の放射線衛生と和牛業の復活」 畜産業を復活させる会 復活の牧場、東京、2012年12月1日 (講演)
  91. 高田 純：「福島津波核災害の克服と日本の核エネルギー」, 第8回放射線防護医療研究会、東京、2012年12月16日 (基調講演)



92. 高田 純：「放射線被曝と子どもの将来の健康の真実-福島とチェルノブイリの比較からわかること-」, 第7回子どもの発達シンポジウム、東京（聖徳大学）、2013年3月9日（シンポジウム）
93. 高田 純：「これでいいのか日本!」、日本の安全保障を考える姫路市の会主催：高田 純先生講演会、姫路、2013年3月30日（講演）
94. 高田 純：「放射線とその人体影響について」、中部電力主催講演会、名古屋、2013年3月30日（講演）
95. 高田 純：「2012年タリム盆地核ハザード調査」、シルクロード科学プロジェクト緊急報告会、東京、2013年6月23日（講演）
96. 高田 純：「福島の真実! 低線量で健康被害なし これでもいいのか日本! 原発を再稼働しよう!」、頑張れ日本! 講演会、福岡、2013年9月1日（講演）
97. 高田 純：「世界の核災害現場と福島」、放射線に関する講習会、千葉県、2013年9月8日（講演）
98. 高田 純：「低線量率の福島セシウムで健康被害はない - 強制避難の抜本見直しを問う - 」, シンポジウム「脱原発」は、日本経済衰亡の禍機 - 科学と法と人倫に違背する〈避難&賠償〉 - 、東京、2013年10月13日（講演）
99. 高田 純：「福島の真実! 低線量で健康被害なし これでもいいのか日本! 原発を再稼働しよう!」、文化チャンネル桜2千人委員会主催：熊本県支部講演会、熊本、2013年11月10日（講演）
100. 高田 純：「世界の核災害現場と福島、及び千葉県のホットスポット」、放射線に関する講習会、千葉県、2013年12月7日、8日（講演）
101. 高田 純：「世界の核災害現場と福島」、放射線に関する講習会、千葉県、2014年1月25日（講演）
102. 高田 純：「世界の核災害現場と福島 報道ヒステリーの理由」、保守の会 特別講演会、茨城県日立市、2014年6月15日（特別講演）
103. 高田 純、村橋祐樹、中村泰幸：太陽紫外線暴露が大腸がんリスクを低下させる、日本保健物理学会 第47回研究発表会、岡山、2014年6月20日（講演）
104. 高田 純：「人は放射線なしに生きられない 《福島県浪江町での生命の科学調査》」、創立記念特別講演会、大阪府、2014年7月11日（特別講演）
105. 高田 純：「風評被害と人権」、平成26年度柏市人権講演会、千葉県、2014年9月5日（講演）
106. 高田 純：「世界の核災害現場と福島及び千葉の放射線衛生」、平成26年度松戸市講演会、千葉県、2014年9月14日（講演）
107. 高田 純：「世界の核災害現場と福島及び千葉の放射線リスク（風評被害とかに闘うか）」、平成26年度印西市講演会、千葉県、2014年10月28日（講演）
108. 高田 純：「放射線防護の実践 福島軽水炉事象の検証」、第58回北部防衛衛生学会、札幌市、2014年11月27日（講演）
109. 高田 純：「福島の事故の事実に基づく原子力の安全と防災を市民と考える～福島県民の放射線衛生の事実と屋内退避など重要なポイント～」、原子力国民会議講演会、松江市、2014年12月7日（特別講演）
110. 高田 純：「放射能 歴史と真実～放射能ヒステリーインヒストリー～（広島生存者の長寿、第5福竜丸船員の売血輸血による急性肝炎、中央アジアの核爆発災害、福島軽水炉事故の

4年間の調査)」、主催・福島を人道科学で支援する会、放射線防護情報センター、東京都 文京シビックセンター、2015年3月7日(講演)

111. 高田 純: 「福島軽水炉事故 県民の低線量 4年間の調査」、2015 南相馬放射線防護学セミナー、主催・放射線防護情報センター、南相馬原町 ひばり生涯学習センター2015年3月8日(講演)
112. 高田 純: 「Remarkable decrease of dose in the Fukushima 20km zone since 2011, 2015 福島20km圏内の線量の2011年以來の顕著な減衰」第15回国際放射線研究会議 ICRR (日本放射線影響学会第58回大会と同時・共同開催), 京都, 2015年5月26日 (Poster Presentation)
113. 高田 純: 「ラジウム温泉による身体への効用~放射線の身体影響と北海道二股ラジウム温泉体験研修」、主催・スウィーム株式会社、登別温泉・洞爺湖温泉、2015年6月11日12日13日(講演)
114. 高田 純: 「県民に健康被害なし、20km圏内も復興できる」、JAPAN+PLUS セミナー、東京、2015年7月19日(基調講演)
115. 高田 純: 「県民に健康被害なし! 原発20km圏内も復興できる!」、主催「福島安全宣言」実行委員会、郡山市、2015年7月20日(講演)
116. 高田 純: 「福島県民の放射線衛生の事実と屋内退避など重要なポイント」、原子力国民会議、松山市、2015年7月25日(講演)
117. 高田 純: 「復興 早かった広島と進まない福島之谜 福島20km圏内も帰還できます」、原子力国民会議、広島市、2015年7月26日(講演)
118. 高田 純: 「世界の放射線事情」、第22回日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)中国・四国大会、岡山市、2015年9月6日(ランチョンセミナー講演)
119. 高田 純: 「世界の核災害現場と福島及び千葉の放射線衛生」、平成27年度 千葉県放射線に関する講習会、千葉県柏市、2015年9月27日(講演)
120. 高田 純: 「世界の核災害現場と福島そして千葉」(風評との闘い)、平成27年度 千葉県人権啓発指導者養成講座、千葉縣市川市、2015年10月29日(講演)
121. 高田 純: 「県民に健康被害なし 原発20キロ圏内も復興できる!」、福島安全宣言の会いわき大会、いわき市、2015年11月29日(講演)
122. 高田 純: 「放射線と健康」、倫理法人会セミナー、東京都、2016年3月19日(講演)
123. 高田 純: 「福島の放射線衛生調査 低線量の真実」、仙台厚生病院 平成28年度春季セミナー、仙台市、2016年4月8日(特別講演)
124. 高田 純 「The reality of the low radiation dose in Fukushima Daiichi NPP 20Km zone」14th International Congress of the International Radiation Protection Association, Cape Town, South Africa ,2016年5月10日

125. 高田 純：「核利用技術の光と影」、もんじゅ運営企画、研究開発センター、敦賀市、2016年6月24日
126. 高田 純：「核利用技術の光と影」（日本人が知らされなかった真実）、いのちとエネルギー研究会、福井市、2016年6月25日
127. 高田 純：「放射線防護学研究最前線 福島と国民保護」、自衛隊中央病院(自衛隊員限定)、東京都、2016年7月7日
128. 高田 純：「福島放射線衛生調査の科学 県民に健康リスクなし」、保守の会東海支部、茨城県那珂郡東海村。2016年7月23日
129. 高田 純：「現地科学調査から見えた福島の真実」一般社団法人Gジャパンフロンティア協会・第80回家族の日セミナー（招待講演）、東京都、2016年9月28日。

## VII 学会発表（一般）

1. 山本政儀、坂口綾、星正治、高田 純、B. I. Gusev：異常に高いウラン濃集の湖沼堆積物：セミパラチンスク核実験場周辺のいくつかの湖沼、日本放射科学会・第48回放射科学討論会、東京、2004年10月27-29日。
2. 高田 純：核爆発事象に対応する放射線防護計算システム RAPS の開発、日本保健物理学会第39回研究発表会、六ヶ所村、2005年6月30日-7月1日。
3. 高田 純：医学部および医学研究科における放射線防護学の教育と研究、第42回アイソトープ・放射線研究発表会、東京、2005年7月6-8日。
4. 高田 純：核爆発事象に対応する放射線防護計算システム RAPS の開発、日本保健物理学会第39回研究発表会、三沢、2005年6月30日。
5. 高田 純：パネリスト・小型核兵器・放射性物質によるテロ、保健物理・環境科学部会企画セッション「東アジア地域の総合的な放射線・放射能監視システムの構築」、日本原子力学会2006年春の年会、大洗市、2006年3月24日-25日。
6. 高田 純、高田靖司、小木曾力、大野紀和、寺島良治、酒井英一、村肇、白石久仁雄、V. シャロフ、M. O. デグデバ：前歯ベータ線計測率測定による Sr-90 内部被曝線量評価、第40回保健物理学会、広島、2006年6月8日-9日。
7. 高田 純：医学部および医学研究科における核と放射線の物理教育、第43回アイソトープ・放射線研究会発表会、東京、2006年7月5日-7日。
8. 加茂憲一、高田 純：「核兵器テロ後のがん死亡被害予測」、第2回放射線防護医療研究会、札幌市、2006年11月29日。
9. 櫻井良憲、高田 純：「除染棟の性能と日本の法的規制との関係」、第2回放射線防護医療研

究会、札幌市、2006年11月29日。

10. 高田 純：北朝鮮の核実験が日本に与える放射線影響の予測と監視、日本保健物理学会第41回研究発表会、船橋、2007年6月14日-15日。
11. 加茂憲一、高田 純：核兵器テロ後の第線量生存者のがん死亡予測、日本放射線影響学会第50回大会、千葉、2007年11月14日-17日。
12. 櫻井良憲、加茂憲一、高田 純：「半導体素子の核放射線による損傷」、第3回放射線防護医療研究会、札幌市、2007年11月14日。
13. 加茂憲一、高田 純：「核兵器テロ後の発がんによる寿命短縮の予測」、第3回放射線防護医療研究会、札幌市、2007年11月14日。
14. 高田 純：「最大加速で揺れる直前に停止した核反応」、日本保健物理学会第42回研究発表会、沖縄、平成20年6月26日-27日。
15. 高田 純：「医療人のための放射線防護学教材開発」、第45回アイソトープ・放射線研究発表会、東京、平成20年7月2日-4日。
16. 高田 純：「最大加速で揺れる直前に停止した核反応」、日本保健物理学会第42回研究発表会、沖縄、平成20年6月26日-27日。
17. 高田 純：「医療人のための放射線防護学教材開発」、第45回アイソトープ・放射線研究発表会、東京、平成20年7月2日-4日。
18. 高田 純：「中国の核実験災害と線量評価」、第51回放射線影響学会、北九州市、平成20年11月19日-21日。
19. 高田 純：基調講演「核エネルギー施設の安全と危機管理 中越沖地震と四川地震の検証から」、第4回放射線防護医療研究会、札幌市、平成20年12月10日。
20. 田中 憲一、高塚 伸太郎、高田 純：「被曝線量によるトリアージのための線量計 Radtriage の有効性検証」、第4回放射線防護医療研究会、札幌市、平成20年12月10日。
21. 高田 純：「中国の核実験災害とその問題点」、シンポジウム「シルクロードにおける中国の核実験災害と日本の役割」、東京、平成21年3月18日。
22. 高田 純：Chinese nuclear test disasters in East Turkestan, 26 March symposium and 27 March Workshop at Hiroshima University, March 26-27, 2009.
23. 高田 純：「東トルキスタンにおける中国の核実験災害」、日本保健物理学会第43回研究発表会、大阪市、平成21年6月3日-6月4日
24. 高田 純、期待されるわが国の核エネルギー技術、第5回放射線防護医療研究会、平成21年12月16日、札幌医科大記念ホール（札幌市）
25. 高田純：“In-situ Beta Ray Measurements on Front Teeth for Internal Exposure of Sr-90 for Population in the Nuclear Hazard Area”, 第3回アジア・オセアニア放射線防護会議

(AOCR-3) , 東京都江戸川区, 平成 22 年 5 月 24-28 日.

26. 高田純: 「ストロンチウム 90 の体内被曝と前歯ベータ線検査実施」, 第 47 回アイソトープ・放射線研究発表会, 東京都江東区, 平成 22 年 7 月 7-9 日.
27. 高田純: 「ソ連と中国の核兵器開発に学ぶ核放射線防護」, 第 6 回放射線防護医療研究会, 札幌市, 平成 22 年 12 月 1 日.
28. 田中憲一, 加茂憲一, 高塚伸太郎, 高田純: 「半導体素子の中性子 $\gamma$ 線混合照射による損傷」, 第 6 回放射線防護医療研究会, 札幌市, 平成 22 年 12 月 1 日
29. 高田純: 「日本人のストロンチウム 90 内部被曝量と中国楼蘭周辺での核爆発」, 日本保健物理学会第 44 回研究発表会, 茨城県水戸市, 平成 23 年 10 月 17 日 (講演)
30. 高田純: 「東日本放射線衛生調査 4 月、6 月」, 日本保健物理学会第 44 回研究発表会, 茨城県水戸市, 平成 23 年 10 月 18 日 (講演)
31. 高橋知幸, 高田 純: 「原子炉の損傷 チェルノブイリ 4 号機と福島第一の違い」, 第 7 回放射線防護医療研究会、札幌市、2011 年 12 月 12 日. (基調講演)
32. 田中憲一、高田 純:  $\beta$  カウンターを用いた  $^{90}\text{Sr}$  その場測定法の開発, 第 7 回放射線防護医療研究会、札幌市、2011 年 12 月 12 日. (講演)
33. 高田 純: 講演「福島第一 20 km 圏内の牛農家に対する放射線衛生調査」  
日本保健物理学会第 45 回研究発表会、名古屋、2012 年 6 月 17 日 (一般演題)
34. 高田 純: 講演「福島核事象における公衆のセシウム内部被曝線量その場評価」  
日本放射線影響学会第 55 回大会、宮城、2012 年 9 月 6 日 (一般演題)
35. 高田 純: 「福島津波核災害の克服と日本の核エネルギー」, 第 8 回放射線防護医療研究会、札幌市、2012 年 12 月 16 日 (基調報告)
36. 高田 純: 浪江町の和牛体内のセシウムの大幅低下, 日本保健物理学会第 46 回研究発表会、千葉、2013 年 6 月 24 日 (講演)
37. 高田 純: 「人は放射線なしに生きられない 生命と放射線を結ぶ 3 つの法則」, 第 50 回 アイソトープ・放射線 研究発表会、東京、2013 年 7 月 5 日 (教育講演)
38. 高田 純: 「福島県浪江町に生きる和牛体内セシウムの実効半減期」, 第 50 回 アイソトープ・放射線 研究発表会、東京、2014 年 7 月 8 日 (教育講演)
39. 高田 純、村橋祐樹、中村泰幸: 「太陽紫外線曝露が大腸がんリスクを低下させる」, 日本保健物理学会第 47 回研究発表会、岡山、2014 年 6 月 20 日 (講演)
40. 高田 純: 講演「浪江町に生きる和牛体内セシウムの実効半減期と畜産業者の線量評価」 日本放射線影響学会第 57 回大会、鹿児島、2014 年 10 月 3 日 (一般演題)
41. 高田 純: 「福島 20km 圏内の放射線衛生 2014」, 日本保健物理学会第 48 回研究発表会、東京、2015 年 7 月 3 日 (講演)

42. 高田 純：「福島軽水炉事象 2011 事故レベル 6 と評価される」、日本保健物理学会第 49 回研究発表会、青森県弘前市、2016 年 6 月 30 日
43. 高田 純：「事故レベル 6 と考察される福島軽水炉事象 2011」、第 5 3 回アイソトープ・放射線研究発表会、東京、2016 年 7 月 8 日
44. 高田 純：「福島県浪江町からの緊急避難者らの甲状腺中の放射性ヨウ素測定と線量再計算」日本放射線影響学会第 59 回大会、広島市、2016 年 10 月 26 日
45. 高田 純：「ホルミシスクリームの線量測定」、第 5 4 回アイソトープ・放射線研究会発表会、東京、2017 年 7 月 5 日。

## VIII 特許

- |     |                              |                 |            |
|-----|------------------------------|-----------------|------------|
| 1.  | 耐熱性薄膜光電変換素子の製法               | 特公平 08-008368   |            |
| 2.  | 耐熱性薄膜光電変換素子の製法               | 特公平 06-005770   |            |
| 3.  | 半導体装置                        | 特許 2949791      |            |
| 4.  | 多層配線体                        | 特許 2609940      |            |
| 5.  | 平面センサー                       | 特許 2566910      |            |
| 6.  | イメージ光メモリデバイス、光記録方法および光メモリの製法 |                 | 特許 2541576 |
| 7.  | ペプチド結晶薄膜材料                   | 特許公開平 09-087097 |            |
| 8.  | 光学材料                         | 特許公開平 07-261021 |            |
| 9.  | 蛍光層材料及びその製膜方法                | 特許公開平 07-228866 |            |
| 10. | 光学材料                         | 特許公開平 07-097214 |            |
| 11. | 光電材料                         | 特許公開平 07-066471 |            |
| 12. | 調光ガラス                        | 特許公開平 06-227845 |            |
| 13. | 調光ガラス                        | 特許公開平 06-227844 |            |
| 14. | 多層膜厚さ基準物                     | 特許公開平 06-218870 |            |
| 15. | 強誘電性高分子液晶及びその製法              | 特許公開平 06-056939 |            |
| 16. | 多層膜調光材料                      | 特許公開平 06-003712 |            |
| 17. | ポリピロール誘導体およびその製造法            | 特許公開平 05-331266 |            |
| 18. | ピロール誘導体およびその製造法              | 特許公開平 05-331136 |            |
| 19. | ポリチオフェン誘導体およびその製造法           | 特許公開平 05-320322 |            |
| 20. | チオフェン誘導体およびその製造法             | 特許公開平 05-320155 |            |
| 21. | ポリチオフェン誘導体およびその製造法           | 特許公開平 05-279457 |            |
| 22. | チオフェン誘導体およびその製造法             | 特許公開平 05-279354 |            |
| 23. | 光電材料                         | 特許公開平 05-259486 |            |
| 24. | 多層膜調光材料                      | 特許公開平 05-259485 |            |
| 25. | 超伝導装置                        | 特許公開平 05-235417 |            |
| 26. | スイッチング材料                     | 特許公開平 05-235384 |            |
| 27. | 光電材料                         | 特許公開平 05-235383 |            |
| 28. | 半導体装置                        | 特許公開平 05-235382 |            |
| 29. | 光伝導材料                        | 特許公開平 05-020916 |            |

## IX 報告書等

1. 高田 純：水素化アモルファスシリコンドーピング超格子における準安定状態。物性研だより，第28巻第2号，42-42，1988.
2. 高田 純：有機無機複合多層膜 光電材料の新しい概念。インテリジェント材料，13-1，21，1993.
3. 高田 純：有機無機複合ナノシステム。インテリジェント材料，Vol.4(2)，33-39，1994.
4. 高田 純，山本 貴男，渡辺 正則，高木 俊宜：イオンビーム法によるC<sub>60</sub>-セラミックスヘテロナノ構造の形成：電子情報通信学会技術研究報告，OME95-27，57-62，1995.
5. 高田 純：有機-無機ヘテロナノシステムとイオンビーム技術。産業科学技術研究開発プロジェクトに関する調査研究報告書，I13-23，1995.
6. 高田 純：構造材料のヘルスマonitoring関連論文の紹介。インテリジェント材料，6，34-37，1996.
7. 高田 純，星 正治，渡辺正則，高木俊宜：有機-無機ヘテロナノシステムの研究とイオン工学。第6回放射線プロセスシンポジウム講演要旨集，108-111，1996.
8. 高田 純：クラスターイオンビーム法による有機-無機ヘテロ接合膜の形成。第3回次世代イオン工学技術による新材料開発に関する調査研究報告 1996.
9. 高田 純：ヒロシマからセミパラチンスクへ。「不死鳥」広島大学 1996.
10. 新田由美子，麻生博也，藤原 恵，田中英夫，金 隆史，谷 省蔵，宇吹 暁，高田 純，星 正治，神谷研二，丹羽太貫：高分子量 DNA の安定性に対する長期ホルマリン固定，パラフィン包埋の影響。広島医学，49，458-460，1996.
11. 星 正治，高田 純，遠藤 暁，藤村欣吾，藤本 淳，山下俊一，難波裕幸，伊東正博，芹沢潔人，長瀧重信，高辻俊宏，岡島俊三，佐藤 斉，柴田義貞，重松逸造，紀伊国献三，Masyakin V. B.，Kalimullin W. A.，Derzhitsky V. E.，Sharifov V. F.，Veselkina I. I.，Pilenko I. V.，Danilchik S. A.，Krupnik T. A.，Kovalev A. I.，Averichiev A. A.，Shmygun P. M.，Elagin V. V.，Sokolovskiy K. N.，Danilyuk V. V.：チェルノブイリ近郊住民のCs-137体内量の測定。保健物理，31，132-1，1996.
12. Rozenson R.，高田 純，田中英夫，新田由美子，金 隆史，星 正治，加藤 修，木村昭郎，佐藤幸男：セミパラチンスク住民における電離放射線被曝の発癌におよぼす影響。広島医学，49，299-302，1996.
13. 芹沢潔人，長瀧重信，岡島俊三，高辻俊宏，藤村欣吾，下村壮司，星 正治，佐藤 斉，高田 純，藤本 淳：チェルノブイリ事故から10年-健康影響評価に関する日本の国際研究協力-、III-3民間提起。日本原子力学会誌，38，195-200，1996.
14. 高田 純：ヘテロ接合型光センサー創製。ニューセラミックス，2，49-54，1997.
15. 金 隆史，高田 純，星 正治，早川式彦：第2回広島国際シンポジウム ”放射線による長期低線量被曝の人体影響 -セミパラチンスク核実験被災地区をモデルとして- ”の開催。影響学会通信，11，14-15，1996.
16. 新田由美子，麻生博也，藤原 恵，田中英夫，金 隆史，谷 省蔵，宇吹 暁，高田 純，星 正治，早川式彦，神谷研二，丹羽太貫：高分子量 DNA の安定性に対する長期ホルマリン固定，パラフィン包埋の影響。広島大学博物館研究報告，第2号，49-55，1996.
17. 遠藤 暁，星 正治，高田 純，高辻俊宏，江島洋介，立花 章，佐々木正夫：軟X線照射装置を用いた放射線の細胞への物理作用の検討。京都大学放射線生物研究センター年報 1996，33，1997.
18. 高田 純，遠藤 暁，星 正治，江島洋介，立花 章，佐々木正夫：物研究センターに導入された低

- 線量ガンマ線照射装置の線量評価, 京都大学放射線生物研究センター年報 1996, 41-41, 1997.
19. 高田 純: オン工学技術の手法を用いた有機・無機ヘテロ接合型光センサー創製. ニューセラミックス, 2, 49-54, 1997.
  20. 高田 純: セミパラチンスク市. 影響学会通信, No.13, 3, 1997.
  21. 高田 純: モンブランの旅で一雄大な自然を目の前にして, 旅行読売, 5, 214-215, 1997.
  22. 高田 純: 金 隆史, 星 正治, 早川式彦. 第2回広島国際シンポジウム“放射線による長期低線量被曝の人体影響—セミパラチンスク核実験被災地をモデルとして—”の開催. 保健物理, 32, 97-98, 1997.
  23. 高田 純: 生物高度分子機能システムと人工ヘテロ構造. インテリジント材料, 7, 16-22, 1997.
  24. 高田 純: 核とダイヤモンド—サハ共和国地下核爆発による住民の放射線被曝. 影響学会通信, No.16, 1-2, 1997.
  25. 秋山明胤, 高田 純, 長堀芳靖, 佐藤哲雄. 第一回サハ共和国地下核実験放射能汚染調査報告書. 日本財団 1997.
  26. 高田 純, 荻野由紀子, 谷 省蔵, 遠藤 暁, 新田由美子, 星 正治, 佐藤 斉, 高辻俊宏, 吉川 勲, Masyakin V. B., Sharifov V. F., Pilenko I. V., Veselkina I. I.: 携帯用NaIスペクトロメーターによるIn Situ環境放射能測定, 放射線物理, Suppl. No.51, 31-31, 1997.
  27. 高田 純, 新谷貴洋, 中村 隆, 佐藤 哲: 第二回サハ共和国地下核実験放射能汚染調査報告書. 日本財団 1998.
  28. 高田 純, 星 正治: サイアス Field Note・セミパラチンスク核実験と住民の放射線被曝, 34-34, 1998.
  29. 高田 純: 線量国際会議の出席と放射線衛生学研究所の訪問. 放射線被曝者医療国際協力推進協議会 1998.
  30. 高田 純, 保木本彰, 荻野由紀子, 谷 省蔵, 遠藤 暁, 新田由美子, 星 正治, 葉佐井博巳, 佐藤 斉, 高辻俊宏, 吉川 勲: 広島市内のCs-137放射能密度その場測定. 広島医学, 51, 437-438, 1998.
  31. 佐藤健一, 大瀧 慈, 新田由美子, 高田 純, 星 正治: 繰り返し測定データに基づく生物学的効果比の区間推定. 広島医学, 51, 439-441, 1998.
  32. 星 正治, 岩谷和夫, 岡 隆光, 遠藤 暁, 静間 清, 高田 純, 藤田正一郎, 葉佐井博巳: 広島原爆の中性子およびガンマ線の輸送計算. JAERI-Review 1998, 98-010, 210-222, 1998.
  33. 高田 純, Stepano, V., 星 正治他: サハ共和国における地下核爆発クラトン4周辺とテヤ村の調査, 広島医学, 53, 281-283, 2000.
  34. 高田 純: セミパラチンスク旧核実験場近郊住民の外部被曝線量評価, 平成8-10年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書, 1999年3月.
  35. 高田 純: ロシア高放射能汚染地区へのフィールドミッション. 電気学会誌, 119, 367-370, 1999.
  36. 高田 純: ロシア連邦でのプルトニウム製造過程における周辺住民に対する放射線防護衛生学上の課程. 放射線科学 2000, 43, 334-341.
  37. 高田 純, 星 正治, 山本正義, 長友恒人, 高辻俊宏, 吉川勲 et al.: セミパラチンスク核実験場周辺住民の外部被曝線量. 長崎医誌, 75, 190-194, 2000.
  38. 高田 純, 小村和久, 三頭聡明編集. 核災害時における専門家のとりくみ(JCO臨界事故における文部省緊急調査班の活動を中心に)第二回環境放射能・放射線夏の学校ワークショップ報告書, 2000年9月.
  39. Takada J.: Radiological investigations in Rongelap Island 1999, The first report. International Radiation Information Center, Research Institute for Radiation Biology and Medicine, Hiroshima University, October 2000.
  40. 高田 純: 内部被曝線量その場評価法の開発. 平成10-12年度科学研究費補助金(基盤研究(B))



(2) ) 研究成果報告書, 2001年3月.

41. 高田 純. 世界の放射線被曝地調査. 広島平和記念館ヒロシマ講座, 2.17, 2002.
42. 高田 純. 旧ソ連の“灯台”・マヤーク (Mayak・Lighthouse in the former Soviet Union). 講談社「本」2月号, 50-52, 2002.
43. 高田 純: 放射線防護に役立てるために 世界の放射線被曝地を調査, 平和文化 第145号, 13, 2002.
44. 高田 純. 世界の放射線被曝地調査, 広大フォーラム (No.370), 20, 自著を語る, 2002.
45. 星 正治、大瀧慈、高田 純、遠藤暁: 日米によるDS86に換わる原爆線量評価システムの構築と人の放射線影響解析、平成13~15年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書(課題番号13480169)、2004年3月.
46. 高田 純: 核の時代の人類のモラル、NHKラジオ深夜便 ころの時代、2004.
47. 高田 純: 荒廃した生活環境の回復連絡委員会・放射性物質による環境汚染の予防と回復専門委員会報告: 放射性物質による環境汚染の予防と回復に関する研究の推進、日本学会会議、2005.
48. 高田 純、星 正治、岡本哲治、佐藤 斉: セミパラチンスク核実験場周辺での長期低線量率被曝に関する外部被曝線量再構築、平成14~16年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(2))研究成果報告書(課題番号14380253)、2005年3月.
49. 高田 純: 原子力防災における緊急被曝医療の研究、平成15~16年度中国電力技術研究財団試験研究助成金・研究成果報告書, 2005.
50. 高田 純: ロングラップを訪ねて、札幌医科大学医学部医学科における一般教育「21世紀問題群」の講義スライドと受講生の感想文、2005.

————— 2006

51. 高田 純: セミパラチンスクを訪ねて、札幌医科大学医学部医学科における一般教育「21世紀問題群」の講義スライドと受講生の感想文、2006.

## **X 教育講演等**

1. 高田 純: 世界の放射線被曝地を調査、放射線業務従事者教育のため、茨城県大洗町、北大学金属材料研究所附属材料試験炉利用施設, 2003年5月8日-9日.
2. 高田 純: 正しい放射線の理解~原子力事故と放射線被曝、「施設見学セミナー」講演、「フォーラム・エネルギーを考える」、水戸市、2003年5月22日-23日.
3. 高田 純: 原子災害の影響と公衆の防護, 講演と講義, 核燃料サイクル開発機構 敦賀本部、国際技術センター、敦賀、2003年6月5日-6日.
4. 高田 純: 招待講演、チェルノブイリを訪ねて, 講演と講義, 中国電力株式会社、「ハーモニー ネットエネルギーセミナー柳井」第一回講演会、柳井、2003年7月17日.
5. 高田 純: 原子力災害における公衆の放射線被曝の真実、講演と講義、財団法人放射線利用振興協会国際原子力技術協力センター、日立シビックセンター、茨城県日立幸町、2003年8月20日.
6. 高田 純: 身の回りの放射線について、講演と実験、中国電力株式会社広報室, 岡山, 2003年10月9日.
7. 高田 純: 招待講演、世界とわが国の核災害およびそれからの回復と復興、シンポジウム「核災害からの復興と原子力の平和利用における今後の課題」ービキニ被災50周年を記念して、日本学会会議、東京、2004年8月6日.
8. 高田 純: 招待講演、放射線と人体の関係の研究を続けてー日本の場合、フランスの場合ー」社団・女性職能集団WAR P講演会、日本原子力振興財団、大阪、2004年9月15日.
9. 高田 純: 核テロリズムによる放射線被曝とその防護対策および核ハザードと社会心理的影響の現

状と課題、日本学術会議「荒廃した生活環境の回復研究連絡会」会議講演、東京、2004年10月6日。

10. 高田 純：招待講演、対核テロリズム、消防庁国民保護室セミナー、東京、2004年10月19日。
11. 高田 純：招待講演、核災害に対する放射線防護、核燃料サイクル開発機構講演会、東海村、2005年3月7日。
12. 高田 純：招待講演、対核テロリズム 日本は防衛できるか?! 核テロリズムの脅威と放射線防護策、第3回国際テロ対策研究会、外務省テロ対策協力室、東京、2005年7月6日。
13. 高田 純：放射線物質テロ対策から原子力の基礎知識を学ぶ、安全安心な社会を実現する科学技術人材養成プロジェクトジャーナリストコース「リスク社会と報道」連続セミナー第2回、東京大学先端科学技術センター、東京、2005年7月23日。
14. 高田 純：大規模核災害における報道の役割と課題、テレビ朝日報道局員対象の社内勉強会、東京、2005年9月16日。
15. 高田 純：招待講演、「環境と健康を科学する～放射線の利用と防護」、松江市民大学公開講座、松江市、2006年8月27日。
16. 高田 純：招待講演、「核爆発災害」、札幌社会福祉専門学校開校90周年記念講演、札幌市、2006年9月1日。
17. 高田 純：招待参加、原子力委員会「市民参加懇談会 in 松江」、テーマ：原子力～知りたい情報は届いていますか～、於松江テルサ、松江市、2006年12月6日。
18. 高田 純：「核爆発災害について」、文部科学省委託事業－原子力・エネルギーと地域の関わりについて－の講義（ラジオ部学生10名を対象に）、於茨城工業高等専門学校、ひたちなか市、2007年12月17日。
19. 高田 純：「各災害の科学 実像と大きく異なる日本人の心象」東京電力（株）講義および少人数でのフリートーク、東京、2008年7月15日。
20. 高田 純：招待公演「中越沖地震に学ぶ危機管理の課題について」、日本原子力研究開発機構講演会講師、原子力緊急時支援・研修センター、ひたちなか市、2008年8月25日。
21. 高田 純：招待公演「中越沖地震に学ぶ危機管理の課題について」、日本原子力研究開発機構講演会講師、高速増殖炉研究開発センター、敦賀市、2008年10月6日。
22. 高田 純：招待公演「放射線防護学について」、(財)日本原子力文化振興財団による講師依頼、奈良学園中学校・高等学校、大和郡山市、2008年11月4日。
23. 高田 純：緊急レポート「知られざる「中国核実験」の惨状」～中国・北朝鮮の核兵器開発と日本の課題～、日本会議広島時局講演会、平成21年5月23日。  
————— 2011
24. 高田 純：招待公演「真実を知ろう福島放射線」、こころとからだの健康フェスタ2012講師、東京都立産業貿易センター、東京都、2012年3月31日  
————— 2012
25. 高田 純：公演「福島県放射線衛生調査報告低線量で健康被害なし」、大学院共通講義・先端医学セミナー、札幌医科大学、札幌、2012年11月6日  
————— 2013
26. 高田 純：公演「福島県における放射線衛生」、「放射線の影響を科学的に検証する議員連盟」にて「福島県における放射線衛生」についての勉強会、衆議院第二議員会館、東京、2013年5月29日
27. 高田 純：公演「世界の核災害現場と福島」、千葉県主催放射線に関する講習会、千葉県文化

会館、千葉、2013年9月8日

————— 2014

28. 高田 純：公演「放射線と生命」、北海道札幌厚別高校、札幌、2014年6月23日  
29. 高田 純：公演：「福島20km圏内は帰還できる線量です」、放射線議連及び普及する会主催、衆議院第二議員会館、東京、2014年10月29日

————— 2016

30. 高田 純：「福島20km圏内の低線量・低線量率の科学」、日本医科大学 放射線作業従事者に対する教育訓練講師2016、東京都、2016年4月25日（講演）  
31. 高田 純：「放射線に関する講習会」千葉県防災危機管理部防災対策課、松戸市、2016年9月3日  
32. 高田 純：公演「現地科学調査から見た福島の実」、大学院共通講義・平成28年度先端医学セミナー、札幌医科大学、札幌、2016年11月8日

## X I その他主宰した研究会、共同研究、在外研究

- 高田 純：第1回放射線防護医療研究会・代表世話人、札幌、2005年11月21日。  
高田 純：第1回放射線防護医療研究会公開勉強会・代表世話人、札幌、2006年3月16日。  
高田 純：第2回放射線防護医療研究会・代表世話人、2006年11月29日。  
高田 純：第2回放射線防護医療公開勉強会・代表世話人、札幌、2007年9月5日。  
高田 純：第3回放射線防護医療研究会・代表世話人、札幌、2007年11月14日。  
高田 純：第4回放射線防護医療研究会・代表世話人、札幌、2008年12月10日。  
高田 純：第5回放射線防護医療研究会・代表世話人、札幌、2009年12月10日。  
高田 純：第6回放射線防護医療研究会・代表世話人、札幌、2010年12月1日
- 高田 純：第7回放射線防護医療研究会・代表世話人、札幌、2011年12月12日  
高田 純：第8回放射線防護医療研究会・代表世話人、東京、2012年12月16日  
高田 純：第9回放射線防護医療研究会・代表世話人、東京、2013年11月24日  
高田 純：第一回放射線の正しい知識を普及する研究会 SAMURAI2014・プログラム委員長、東京、2015年3月24日  
高田 純：日本の平和と繁栄を考える科学の会、平和と防衛 アジアの海・沖縄県と日本、「誇りある国 日本」（基調報告）、東京、2016年10月16日  
高田 純：放射線防護情報センター・日本の平和と繁栄を考える科学の会、科学講演会「誇りある日本文明」（講師）、札幌、2016年12月10日

### 在外研究

- 高田 純：マーシャル諸島共和国 2005年7月31日—8月7日（8日間）  
マーシャル諸島を再訪問、島民の前歯ベータ計数を測定するため。  
高田 純：オーストリア、ウィーン 2007年4月21日—4月29日、  
IAEA 会議出席のため。  
高田 純：ブエノス・アイレス、アルゼンチン 2008年10月17日—10月25日、第12回  
国際放射線防護学会参加のため。  
高田 純：ウランバートル、モンゴル 2011年3月21日—3月28日、モンゴル人の内部被

曝線量その場調査法による前歯のベータ線計測

高田 純：グラスゴウ、スコットランド 2012年5月13日－5月20日、第13回国際放射線防護学会参加のため

高田 純：ケープタウン、南アフリカ、2016年5月7日～5月14日、第14回国際放射線防護学会参加、福島20Km圏内の低線量率の真実についての講演

共同研究

高田 純：「災害時放射線防護計算機システムに関する基礎的研究」、札幌医科大学と日本原子力研究開発機構との共同研究、平成17年8月締結。

第1回会議を同年11月29日、札幌医大医学部物理学教室にて行う。

出席者：武石 稔、竹安正則、高田純、加茂憲一。

## I II 教育用資料

高田 純：「放射性ストロンチウムによる体内被曝線量のその場検査」

平成21－23年度科研費（基盤研究C）2010年3月作成

高田 純：「楼蘭周辺での核爆発からの黄砂に含まれていた放射性ストロンチウム日本人の骨格に蓄積」

平成21－23年度科研費（基盤研究C）2011年3月作成

高田 純：「放射線はエネルギーだ～放射線と健康 生命と自然放射線、医療と核災害～」

平成21－23年度科研費（基盤研究C）2012年作成

高田 純：「放射能と放射線の基礎知識」

平成25年度KAGAC教員免許状更新講習（eラーニング）講師

高田 純：「放射能と放射線の基礎知識」

平成28年度玉川大学および協力機関によるeラーニング

教員免許状更新講習(e-TAMAGO)講師

## I III その他

1. 高田 純：福島で復興する低線量で健康被害は発生しない，Voice, Vol2,5, 2011
2. 高田 純：「美味しんぼ」論争・科学者からの反論～非科学的な“風評加害”は許せません，Voice, 2014年7月号, 136-143, 2014

## 受賞

1. 鐘淵化学工業技術振興特別賞（昭和63年（1988年））
2. 未踏科学技術協会・第一回高木賞（平成6年（1994年））
3. 中国電力技術研究財団 原子力防災における緊急被曝医療の研究（平成15年（2003年））
4. 第3回最優秀藤誠志賞（2010年）「広島平和公園の碑文は撤去すべし」
5. 第4回最優秀藤誠志賞（2011年）「福島は広島にもチェルノブイリにもならなかった 東日本現地調査から見た真実と福島復興の道筋」
6. 第49回北部防衛衛生学会における感謝状「被核武力攻撃事態における医療対応」（特別講演）（平成18年2月2日）
7. 第58回北部防衛衛生学会における特別公演の功績「放射線防護の実践 福島軽水炉事象の検証」（特別講演）（平成26年11月27日）

## 日本図書館協会選定図書

1. 高田 純：「核爆発災害 ―そのとき何が起こるのか（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-176，2015
2. 高田 純：「決定版 福島放射線衛生調査―低線量率だった福島の実態と 20Km 圏内の復興（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-202，2015
3. 高田 純：増補版「世界の放射線被曝地調査―日本人が知らされなかった真実」，（高田純の放射線防護学入門シリーズ）」，医療科学社，1-244，2016

## これまでに受けた研究費

### 【科学研究費補助金】

1. 国際学術研究（平成 7-8 年）セミパラチンスク核実験場近郊住民の被曝線量評価と疾病調査 高田純（分担）（12,800 千円）
2. 基盤研究C（平成 8-10 年）セミパラチンスク旧核実験場近郊住民の外部被曝線量評価 高田純（代表）（2,600 千円）
3. 国際学術研究（平成 9-10 年）旧ソ連核実験場セミパラチンスク近郊の被曝線量再構築と健康影響調査 高田純（分担）（10,400 千円）
4. 基盤研究B（平成 10-12）内部被曝線量その場評価法の開発 高田純（代表）（4,300 千円）
5. 海外研究開発動向調査・文部省在外研究員（平成 11 年）ロシア連邦での核原料製造過程における周辺住民に対する放射線防護・衛生学上の課題調査に関する研究 高田純（1,126 千円）
6. 基盤研究 B（平成 14-16 年）セミパラチンスク核実験場周辺での長期低線量率被曝に関する外部被曝線量再構築 高田純（代表）（8,500 千円）
7. 基盤研究 C（平成 21-23 年）放射性ストロンチウムによる内部被曝線量その場評価法の検討 高田純（代表）（2,900 千円）
8. 挑戦的萌芽研究（平成 24-26 年度）中性子捕捉療法の新しい品質保証法―増感した面検出器による線質弁別二次元分布測定―田中憲一（代表）、高田純（分担）（2,900 千円）
9. 基盤研究 B（平成 26-28 年度）中性子捕捉療法の 4 線質 3 次元分布の品質保証―田中憲一（代表）、高田純（分担）（3,200 千円）

### 【その他】

1. 中国電力技術研究財団 試験研究助成金（平成 15-16 年）「原子力防災における緊急被曝医療の研究」 高田純（代表）（2,500 千円）
2. 札幌医科大学特定医学研究推進事業費（平成 19 年度）「がんプロフェッショナル養成のための放射線防護学教材の開発」高田純（代表）（500 千円）
3. 日本放射線影響学会、日本保健物理学会、放射線防護医療研究会代表世話人
4. 放射線防護情報センター代表
5. 北海道地区緊急被ばく医療ネットワーク調査検討会委員
6. 元国連科学委員会国内対応委員会委員、
7. 第 19 期日本学術会議研究連絡員